I 共通科目 教育課程

〈全学部全学科共通〉[2023年度生]

授業科目区分		必要な単位数	人間生活学部 必修	人間生活学部 選択必修	教育人文学部 必修	教育人文学部 選択必修	社会情報デザイン学部 必修	社会情報デザイン学部 選択必修	条件
共通科目	ゼミナール	●22単位以上 • 必修8単位 • 選択必修6単位 • 選択科目8単位以上を履修すること	3	0	3	0	3	0	「入門ゼミナール」1科目2単位必修 「コミュニケーション演習」1科目1単位必修
	総　合		2	0	2	0	0	0	人間生活学部は「地域と人間生活」1科目2単位必修 教育人文学部は「人間理解ワークショップ」1科目2単位必修
	女性を生きる		0	2	0	2	0	2	指定の科目（＊1）から1科目2単位以上を選択必修
	社会に生きる		0	2	0	2	0	2	指定の科目（＊2）から1科目2単位以上を選択必修
	保健体育		0	1	0	1	0	1	1科目1単位以上を選択必修 （なお、「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。）
	情報処理		1	0	1	0	1	0	「情報処理演習Ⅰ」1科目1単位必修
	外国語（基礎科目）		0	1	0	1	0	1	1科目1単位以上を選択必修
	外国語目的別科目		0	0	0	0	2	0	社会情報デザイン学部は「英語コミュニケーション応用」1科目2単位必修
	日本語（非母語者向）								日本語を母国語としない者のみ履修可
	キャリア教育		2	0	2	0	2	0	「キャリアデザイン入門」1科目2単位必修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
共通科目	ゼミナール	入門ゼミナール	2		講義	○								
		コミュニケーション演習	1		演習	○	○							
		読書入門ゼミナール		2	演習		○		○		○		○	
		課題解決ゼミナール		2	演習			○	○	○	○			
		総合ゼミナール		2	演習					○	○	○	○	
	総合	地域で学ぶ		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		地域と人間生活	※1 2	※2 2	講義			○	○	○	○	○	○	※1…人間生活学部 ※2…教育人文学部 社会情報デザイン学部
		人間関係とコミュニケーション		2	講義		○		○		○		○	
		人間理解ワークショップ	※3 2	※4 2	講義			○	○	○	○	○	○	※3…教育人文学部 ※4…人間生活学部 社会情報デザイン学部
		総合科目		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		自主社会活動　※①		1	演習	○	○	○	○	○	○	○	○	繰り返し受講可
	女性を生きる	キャリアデザインとライフプラン＊1		2	講義	○	○							＊1の5科目から1科目2単位以上を履修すること
		リーガルリテラシー　＊1		2	講義	○	○							
		ジェンダーリテラシー　＊1		2	講義	○	○							
		子育てと環境　＊1		2	講義	○	○							
		女性と健康　＊1		2	講義	○	○							
		女性の心と身体		2	講義	○	○	○	○	○	○			保育士資格取得希望者及び管理栄養士国家試験受験資格取得希望者は、「女性の心と身体」を履修すること
		食の科学		2	講義			○	○	○	○			
		歴史のなかの女性		2	講義			○	○	○	○			
		芸術を読みとる		2	講義			○	○	○	○			

註：※①印の「自主社会活動」の単位取得方法についての詳細は、P.52を参照してください。

[共通科目]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
共通科目	社会に生きる	グローバル社会 ＊2		2	講義	○	○							＊2の5科目から1科目2単位以上を履修すること
		ネットワーク社会 ＊2		2	講義	○	○							
		共生社会入門 ＊2		2	講義	○	○							
		多様性と倫理 ＊2		2	講義	○	○							
		持続可能な社会 ＊2		2	講義	○	○							
		くらしのなかの日本国憲法		2	講義	○	○	○	○	○	○			教員免許取得希望者は、「くらしのなかの日本国憲法」を履修すること
		ボランティア論		2	講義	○	○	○	○	○	○			
		災害と社会		2	講義			○	○	○	○			
		21世紀型の教育		2	講義			○	○	○	○			
	保健体育	身体運動Ⅰ		1	実技	○		○		○		○		1科目1単位履修（「身体運動Ⅰ」を履修することが望ましい。 教員免許取得希望者及び保育士資格取得希望者は2科目2単位を履修すること 「身体運動Ⅱ」は、繰り返し受講可（ただし条件あり）
		身体運動Ⅱ		1	実技		○		○		○		○	
	情報処理	情報処理演習Ⅰ	1		演習	○								教員免許取得希望者は、2科目2単位を履修すること
		情報処理演習Ⅱ		1	演習		○		○		○		○	
	外国語（基礎科目）	英語Ⅰa		1	演習	○								12科目から1科目1単位以上を履修すること ただし、日本語を母語としない者は、「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修すること。 教員免許取得希望者及び保育士資格取得希望者は、以下のいずれかの科目2科目2単位を履修すること ・「英語Ⅰa」と「英語Ⅰb」の2科目2単位 ・「中国語Ⅰa」と「中国語Ⅰb」の2科目2単位 ・「朝鮮語Ⅰa」と「朝鮮語Ⅰb」の2科目2単位 ・「フランス語Ⅰa」と「フランス語Ⅰb」の2科目2単位
		英語Ⅰb		1	演習		○							
		英語Ⅱa		1	演習			○		○		○		
		英語Ⅱb		1	演習				○		○		○	
		中国語Ⅰa		1	演習	○								
		中国語Ⅰb		1	演習		○							
		中国語Ⅱa		1	演習			○		○		○		
		中国語Ⅱb		1	演習				○		○		○	
		朝鮮語Ⅰa		1	演習	○								
		朝鮮語Ⅰb		1	演習		○							
		フランス語Ⅰa		1	演習	○								
		フランス語Ⅰb		1	演習		○							
		海外語学研修		1	実習	○		○		○		○		
	外国語目的別科目	英語コミュニケーション基礎a		1	演習			○		○		○		
		英語コミュニケーション基礎b		1	演習				○		○		○	
		英語コミュニケーション発展a		1	演習					○		○		
		英語コミュニケーション発展b		1	演習						○		○	
		英語コミュニケーション応用	※5 2	※6 2	演習		○		○		○		○	※5…社会情報デザイン学部 ※6…人間生活学部 教育人文学部
		アドバンスト・リスニング		2	講義		○		○		○		○	
		アドバンスト・リーディング		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		アドバンスト・ライティング		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ビジネス英語		2	講義				○		○		○	
		映画・ドラマ英語		2	講義			○	○	○	○	○	○	
		インターネット英語		2	講義				○		○		○	
		メディア英語		2	講義			○		○		○		
		ＴＯＥＩＣ対策講座		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		中国語試験対策講座		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	
		日本語検定対策講座		2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	

[共通科目]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
共通科目	日本語（非母語者向）	総合日本語Ⅰa		1	演習	○								日本語を母語としない者は「総合日本語Ⅰa」「総合日本語Ⅰb」を履修し単位を修得すれば、外国語（基礎科目）の単位として認定する。ただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験で測定）、かつ、教員が実施する課題をもって話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。
		総合日本語Ⅰb		1	演習		○							
		総合日本語Ⅱa		1	演習			○						
		総合日本語Ⅱb		1	演習				○					
		総合日本語Ⅲa		1	演習					○		○		
		総合日本語Ⅲb		1	演習						○		○	
		日本語表現技術Ⅰ		1	演習	○		○		○		○		
		日本語表現技術Ⅱ		1	演習		○		○		○		○	
		日本語表現技術Ⅲ		1	演習	○		○		○		○		
		日本語表現技術Ⅳ		1	演習		○		○		○		○	
		日本語研究A（時事Ⅰ）		1	演習	○		○		○		○		
		日本語研究B（時事Ⅱ）		1	演習		○		○		○		○	
		日本語研究C（ビジネスⅠ）		1	演習	○		○		○		○		
		日本語研究D（ビジネスⅡ）		1	演習		○		○		○		○	
		日本語研究E（医療・福祉専門）		1	演習	○		○		○		○		
		日本語研究F（人文科学）		1	演習		○		○		○		○	
		日本語能力試験対策講座Ⅰ		1	演習	○		○		○		○		
		日本語能力試験対策講座Ⅱ		1	演習		○		○		○		○	
		日本語集中講座（編入）		1	演習	○		○		○		○		
	キャリア教育	キャリアデザイン入門	2		講義			○	○					
		キャリアロールモデル研究		2	講義			○						
		企業に学ぶキャリアデザイン		2	講義			○						
		プロアクティブ人材育成		2	講義				○					
		キャリアサポート演習		2	演習					○				
		キャリア基礎力Ⅰ		2	講義			○		○				
		キャリア基礎力Ⅱ		2	講義				○		○			
		インターンシップ短期		1	実習	○	○	○	○	○	○			繰り返し受講可
		インターンシップ長期		2	実習	○	○	○	○	○	○			繰り返し受講可

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	・大学の学修で必要となる学びの方法（スタディーズスキル）を身につける。 ・人や文化などの多様性を理解し、課題を発見・分析する力をつける。 ・価値観や考え方の違いを乗り越えた関係を築きながら、課題を解決するスキルを身につける。	入門ゼミナール コミュニケーション演習 読書入門ゼミナール	課題解決ゼミナール	総合ゼミナール	
総合	・地域社会の一員として地域と、そこで生きる人間への理解を深める。 ・地域的課題への問題意識や人間理解の意識をもち、個々の事象を複数の視点から捉えることができる。 ・人々と関わり、積極的に参画する態度や技能を身につける。	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活（※人間生活学部のみ必修。教育人文学部と社会情報デザイン学部は選択。） 人間理解ワークショップ（※教育人文学部のみ必修。人間生活学部と社会情報デザイン学部は選択。）		
女性を生きる	・社会における女性の立場について、現状を冷静に理解し把握する。 ・これからの社会において女性の役割や生き方、あり方について、考えられる課題を解決していく力をつける。 ・文章を読んで、意味や記述者の意図を理解することができる。	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康 （5科目から1科目選択必修） 女性の心と身体	食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる		
社会に生きる	・異なる価値観を理解し、これからの社会に生きる力をつける。 ・現代的課題への問題意識をもとに多様な視点から未来をデザインする力をつける。 ・文章を読んで、意味や記述者の意図を理解することができる。	グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会 （5科目から1科目選択必修） くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論	災害と社会 21世紀型の教育		
保健体育	・心身の健康を保持増進する手段を学び、運動により人生を豊かにする力をつける。	身体運動Ⅰ 身体運動Ⅱ			
情報処理	・コンピューターや電子機器を活用し、自らの学修に活用することができる。 ・図表等を用いた表現など状況にあった活用を行うことができる。	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			
外国語（基礎科目）	・選択した言語の基本的な構造や語彙を理解し、実際に使用することができる。 ・自国以外の人間と互いに意思の疎通を図ることができる。	英語Ⅰa 英語Ⅰb 中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 朝鮮語Ⅰa 朝鮮語Ⅰb フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb 海外語学研修	英語Ⅱa 英語Ⅱb 中国語Ⅱa 中国語Ⅱb		
外国語目的別科目	・選択した言語の基本的な構造や語彙を理解し、実際に使用することができる。 ・自国以外の人間と互いに意思の疎通を図ることができる。	英語コミュニケーション応用（※社会情報デザイン学部のみ必修。人間生活学部と教育人文学部は選択。） アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座 アドバンスト・ライティング	英語コミュニケーション基礎a 英語コミュニケーション基礎b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 インターネット英語 メディア英語	英語コミュニケーション発展a 英語コミュニケーション発展b	
日本語（非母語者向）	・自国以外の人間と互いに意思の疎通を図ることができる。 ・文章を読んで、意味や記述者の意図を理解することができる。 ・わかりやすい文章を書くことができる。レポート、論文、発表の資料などわかり易くまとめることができる。 ・図表等を用いた表現など状況にあった活用を行うことができる。 ・論理的に考えたことを、（文章や口頭および視覚的に）的確に相手に伝えることができる。	総合日本語Ⅰa 総合日本語Ⅰb 日本語表現技術Ⅰ 日本語表現技術Ⅱ 日本語表現技術Ⅲ 日本語表現技術Ⅳ 日本語研究A（時事Ⅰ） 日本語研究B（時事Ⅱ） 日本語研究C（ビジネスⅠ） 日本語研究D（ビジネスⅡ） 日本語研究E（医療・福祉専門） 日本語研究F（人文科学） 日本語能力試験対策講座Ⅰ 日本語能力試験対策講座Ⅱ 日本語集中講座（編入）	総合日本語Ⅱa 総合日本語Ⅱb	総合日本語Ⅲa 総合日本語Ⅲb	
キャリア教育	・生涯を通じて自己成長を図ろうとする意欲と態度を身に付ける。 ・社会で働くことに対する視野を形成し、職業人として自立するための能力と意欲を身に付ける。さらに、就業に必要な基礎的能力を修得する。 ・大学における学修と大学生活の意義を有効に活用するための資質や態度を身に付け、将来の転機に向けて必要なキャリア設計をすることができる。	インターンシップ短期 インターンシップ長期 キャリアデザイン入門 キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成 キャリア基礎力Ⅰ キャリア基礎力Ⅱ		キャリアサポート演習	
各領域共通 学生が身に付けるべき資質・能力	・自分や周囲の役割を理解し、互いに連携・協力して物事を行うことができる。 ・自分の気持ちを認識し、客観的に自分の言動をコントロールすることができる。 ・他者と自己の違いを認め、自己の強みを認識することができる。 ・論理的に考えたことを、（文章や口頭および視覚的に）的確に相手に伝えることができる。 ・自分と異なる立場や意見でも、共感し、受け入れることができる。 ・どんな相手に対しても、相手に合わせて、自分の考えを述べることができる。 ・ゴールイメージを明確にし、目標を立てることができる。 ・自ら物事にとりかかり、実行に移すことができる。				
CP	本学の共通・教養教育を展開する共通科目においては，大学ディプロマ・ポリシーにあげた資質・能力等を身につけさせるため，次の基本方針に基づいた編成を行う。 1．基礎的な学修能力を養い、心身の充実を図りつつ、自立した女性として、問題を探究する力を身につけさせる 2．体系的・学際的な学修により培われた知識・技能・教養を女性の視点から地域や社会の中で生かす能力と態度を身につけさせる 3．社会生活に必要となる知的・社会的コンピテンスを身につけるとともに、多様な人々の立場や意見を尊重しつつ、女性としての誇りをもち、よりよい社会の発展と文化の向上に貢献する姿勢を身につけさせる これらの方針をもとに、共通科目課程には、10の科目区分、「ゼミナール」「総合」「女性を生きる」「社会に生きる」「保健体育」「情報処理」「外国語（基礎科目）」「外国語目的別科目」「日本語（非母語者向）」「キャリア教育」を設け、各科目区分の学修課程に応じた科目を配置する。				

Ⅱ-1 人間生活学部　健康栄養学科（NA）

〈専門科目教育課程〉[2023年度生]

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必　修	12単位	90単位以上
	選　択	78単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～58参照）
- 専門科目から必修科目12単位を含めた90単位以上を履修すること
- 選択科目は、健康運動コースは健康運動領域のコース必修科目 7 単位、コース選択必修科目10単位以上を含めて履修し、食文化コースは、食文化領域のコース必修科目 4 単位、コース選択必修科目14単位以上を含めて履修すること
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目78単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目84単位を取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	栄養領域	社会生活と健康	栄養士入門		2	講義	○								×	
			公衆衛生学（衛生学を含む）	2		講義				○					×	
			統計学演習		2	演習	○								×	
			社会福祉概論		◆2	講義					○				×	
		人体の構造と機能	解剖生理学（解剖学を含む）	2		講義	○								×	
			解剖生理学実験		◆1	実験		○							×	
			生化学		◆2	講義			○						×	
			生化学実験		◆1	実験				○					×	
			運動生理学（生理学を含む）		◆2	講義			○						×	
			分子栄養学		2	講義								○	○	
			病態生理学		◆2	講義			○						×	
		食品と衛生	食品学Ⅰ	2		講義	○								×	
			食品学Ⅱ		◆2	講義		○							×	
			食品学実験		◆1	実験		○							×	
			食品機能論		2	講義								○	○	
			食品衛生学	2		講義		○							×	
			食品衛生学実験		◆1	実験			○						×	
		栄養と健康	基礎栄養学Ⅰ	2		講義	○								×	
			基礎栄養学Ⅱ		◆2	講義		○							×	
			基礎栄養学実験		◆1	実験	○								×	
			応用栄養学		◆2	講義			○						×	

[単位数欄の記号について]

註：単位数欄にある◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[健康栄養学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	栄養領域	栄養と健康	応用栄養学実習		◆1	実習				○					×	
			臨床栄養学		◆2	講義					○				×	
			臨床栄養学実習		◆1	実習						○			×	
			食事療法演習		2	演習						○			×	
		栄養の指導	栄養指導論Ⅰ		◆2	講義			○						×	
			栄養指導論Ⅱ		◆2	講義				○					×	
			栄養指導論実習Ⅰ		◆1	実習				○					×	
			栄養指導論実習Ⅱ		◆1	実習					○				×	
			公衆栄養学概論		◆2	講義						○			×	
			公衆栄養学実習		◆1	実習							○		×	
			栄養教諭実践論		2	講義					○				×	
		給食の運営	調理学	2		講義	○								×	
			基礎調理学実習Ⅰ		◆1	実習	○								×	
			基礎調理学実習Ⅱ		◆1	実習		○							×	
			応用調理学実習		1	実習				○					×	
			給食計画・実務論		◆2	講義					○				×	
			給食運営実習		◆1	実習						○			×	
			給食運営校外実習		◆1	実習							○		×	
			給食運営演習		◆2	演習							○		×	
			食事計画論演習		2	演習			○						×	
	健康運動領域	運動と栄養	ウエルネス概論（演習を含む）		2	講義･演習	○								×	健康運動コース必修科目
			健康管理概論		2	講義			○						×	健康運動コース必修科目
			健康食育論		2	講義							○		○	
			運動栄養学演習		2	演習					○				×	
			スポーツ栄養学（演習を含む）		2	講義･演習					○				×	
			サプリメント概論		2	講義								○	×	
		運動の科学	運動生理学実験		1	実験				○					×	
			バイオメカニクス		2	講義					○				×	健康運動コース選択必修科目 2科目4単位以上を履修すること
			トレーニング論演習		2	演習						○			×	
			運動プログラム演習		2	演習				○					×	
			体力測定・評価演習		2	演習						○			×	
			スポーツ医学		2	講義						○			×	
			運動の障害と予防		2	講義			○						×	
			トレーナー学演習		2	演習			○						×	
			コーチング論（演習を含む）		2	講義･演習							○		×	
			女性のコンディショニング管理論		2	講義		○							×	
			体育原理		2	講義			○						×	
			運動学（運動方法学）		2	講義				○					×	
			健康・スポーツ心理学		2	講義				○					×	健康運動コース選択必修科目 1科目2単位以上を履修すること
			スポーツ社会学（スポーツ経営管理学を含む）		2	講義				○					×	

[単位数欄の記号について]

註：単位数欄にある◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[健康栄養学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	健康運動領域	身体運動	健康づくりの運動A（体つくり運動・体操）		1	実習	○								×	健康運動コース必修科目
			健康づくりの運動B（ダンス）		1	実習				○					×	健康運動コース選択必修科目 2科目2単位以上を履修すること
			健康づくりの運動C（水泳・陸上競技）		1	実習	○								×	
			健康づくりの運動D（器械運動）		1	実習				○					×	
			健康づくりの運動E（武道）		1	実習				○					×	
			健康づくりの運動F（球技Ⅰ）		1	実習		○							×	
			健康づくりの運動G（球技Ⅱ）		1	実習					○				×	
			健康づくりの運動H（球技Ⅲ）		1	実習						○			×	
		運動と健康支援	健康保育概論		2	講義					○				×	健康運動コース選択必修科目 1科目2単位以上を履修すること
			学校保健概論		2	講義					○				×	
			健康介護概論		2	講義					○				×	
			ケア論		2	講義					○				○	
			障害者福祉論		2	講義								○	×	
			食とアレルギー		2	講義						○			×	
			野外レクリエーション演習		1	演習			○						×	
			救急・応急処置演習		2	演習				○					×	健康運動コース必修科目
			高齢者運動指導演習		2	演習			○		○		○		×	繰り返し受講可
			健康産業施設実習		1	実習						○			×	
			健康運動指導演習		2	演習						○			×	
			健康スポーツビジネス論		2	講義							○		○	
	食文化領域	食の文化	食文化概論		2	講義	○								×	食文化コース必修科目
			食文化と健康		2	講義		○							×	食文化コース選択必修科目 1科目2単位以上を履修すること
			食の比較文化論		2	講義	○								×	
			日本と世界の食文化		2	講義			○						×	
			郷土と行事の食		2	講義					○				×	
			嗜好品の文化（演習を含む）		2	講義・演習							○		×	
			食文化フィールドワーク		1	演習				○					×	
			食農体験		1	演習					○	○			×	繰り返し受講可
		現代の食事文化	食事学概論		2	講義		○							×	食文化コース必修科目
			料理学		2	講義			○						×	
			比較料理学		2	講義						○			×	
			家庭料理論		2	講義							○		×	
			食の分析評価論（演習を含む）		2	講義・演習								○	×	食文化コース選択必修科目 2科目4単位以上を履修すること
			和食文化演習（身体的調理演習）Ⅰ		2	講義・演習				○					×	
			和食文化演習（身体的調理演習）Ⅱ		2	講義・演習					○				×	
			西洋料理文化演習		2	講義・演習						○			×	
			中国料理文化演習		2	講義・演習					○				×	
			薬膳料理文化演習		2	講義・演習							○		×	
			菓子・パンの文化演習		2	講義・演習				○					×	
			食品の調理加工学（演習を含む）		2	講義・演習							○		×	
			現代の食文化事情		2	講義								○	×	

[単位数欄の記号について]

註：単位数欄にある◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[健康栄養学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	食文化領域	食の美学	美味学		2	講義			○						×	食文化コース 選択必修科目 2科目4単位以上を履修すること
			おいしさの科学（演習を含む）		2	講義･演習					○				×	
			食とことば		2	講義						○			×	
			食卓美学（演習を含む）		2	講義･演習						○			×	
			献立と美味論		2	講義							○		×	
			食行動の心理学		2	講義						○			×	
		食のビジネス	食のマーケティング		2	講義						○			×	食文化コース 選択必修科目 2科目4単位以上を履修すること
			フードサービス論		2	講義							○		×	
			フードコーディネート論		2	講義							○		×	
			フードマネージメント論		2	講義								○	×	
			食の企画と演出(演習を含む)		2	講義･演習								○	×	
			おもてなし・ホスピタリティ論(演習を含む)		2	講義･演習						○			×	
			カラーコーディネート論(演習を含む)		2	講義･演習							○		×	
			食のマナー (演習を含む)		2	講義･演習								○	×	
	演習		健康栄養学演習		4	演習					○				×	
	卒業研究		卒業研究		4	演習							○		×	

[単位数欄の記号について]

註：単位数欄にある◆印は選択科目であるが、栄養士免許状を取得するためにはすべて履修しなければならない。

[卒業するための要件について]

註１：本学が定める「履修登録単位数の制限」を踏まえ、以下の２つの条件を満たさない場合は、原則として４年間での卒業はできないものとする。

①３年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち76単位以上であること。

②３年次終了時に次の科目を修得していること。

「解剖生理学(解剖学を含む)」「食品学Ⅰ」「食品学Ⅱ」「食品衛生学」「基礎栄養学Ⅰ」「基礎栄養学Ⅱ」「調理学」

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

健康栄養学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
栄養領域	・栄養士として必要な、基礎的知識および技能を身につけることができる。 ・実験・実習をとおして理解した専門的知見を健康づくりの実践に活かすことができる。 ・健康づくりに関わる指導をするためのコミュニケーション能力を身につけることができる。 ・栄養学を基礎として、運動や食文化に関する情報を収集し、科学的な根拠をもとに的確に判断し、評価できる。 ・自分の考えをもとに自己を表現するとともに、他人の考えに協調し、相互理解することができる。 ・健康に関わる問題に対して論理的に思考し、行動できる。 ・広い視野で社会の変化を捉え、健康に関して意欲的、継続的に学び、健康で活力ある生活を送る社会実現に向けて、多様な人々との協働を生み出すことができる。	栄養士入門 統計学演習 解剖生理学（解剖学を含む） 解剖生理学実験 食品学Ⅰ 食品学Ⅱ 食品学実験 食品衛生学 基礎栄養学Ⅰ 基礎栄養学Ⅱ 基礎栄養学実験 調理学 基礎調理学実習Ⅰ 基礎調理学実習Ⅱ	公衆衛生学（衛生学を含む） 生化学 生化学実験 運動生理学（生理学を含む） 病態生理学 食品衛生学実験 応用栄養学 応用栄養学実習 栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導論実習Ⅰ 応用調理学実習 食事計画論演習	社会福祉概論 臨床栄養学 臨床栄養学実習 食事療法演習 栄養指導論実習Ⅱ 公衆栄養学概論 栄養教諭実践論 給食計画・実務論 給食運営実習	分子栄養学 食品機能論 公衆栄養学実習 給食運営校外実習 給食運営演習
健康運動領域	・すべての人々が生涯を通じて健康づくりのために必要な運動とその指導の基礎的知識と技術を修得することができる。 ・運動と栄養に関わる問題を論理的に思考し、対象に合った適切な運動プログラムを作成し、プレゼンテーションできる。 ・子どもから高齢者まで、あるいは障害者、アスリートなどすべての人々に対して、運動を通して、相互に関わりながら、幅広く主体的に健康支援できる。	ウェルネス概論（演習を含む） 女性のコンディショニング管理論 健康づくりの運動A（体つくり運動・体操） 健康づくりの運動C（水泳・陸上競技） 健康づくりの運動F（球技Ⅰ）	健康管理概論 運動生理学実験 運動プログラム演習 運動の障害と予防 トレーナー学演習 体育原理 運動学（運動方法学） 健康・スポーツ心理学 スポーツ社会学（スポーツ経営管理学を含む） 健康づくりの運動B（ダンス） 健康づくりの運動D（器械運動） 健康づくりの運動E（武道） 野外レクリエーション演習 救急・応急処置演習 高齢者運動指導演習	運動栄養学演習 スポーツ栄養学（演習を含む） バイオメカニクス トレーニング論演習 体力測定・評価演習 スポーツ医学 健康づくりの運動G（球技Ⅱ） 健康づくりの運動H（球技Ⅲ） 健康保育概論 学校保健概論 健康介護概論 ケア論 食とアレルギー 健康産業施設実習 健康運動指導演習	健康食育論 サプリメント概論 コーチング論（演習を含む） 障害者福祉論 健康スポーツビジネス論
食文化領域	・食文化に関する基礎的知識の理解と多彩な料理や食事のスキルを修得し、健康づくりのために必要な食生活の支援ができる。 ・食生活を栄養科学的、感性的、文化的に捉え、総合的に理解し、食の多様性や奥深さ、異文化への見識を深め、健康づくりの食を表現、発信することができる。 ・社会における食の役割を理解し、実践活動と結びつけるために、深い洞察力、良識ある判断力、豊かな想像力を身につけ、人々の健康づくりに協働性をもって貢献できる。	食文化概論 食文化と健康 食の比較文化論 食事学概論	日本と世界の食文化 食文化フィールドワーク 料理学 和食文化演習（身体的調理演習）Ⅰ 菓子・パンの文化演習 美味学	郷土と行事の食 食農体験 比較料理学 和食文化演習（身体的調理演習）Ⅱ 中国料理文化演習 西洋料理文化演習 おいしさの科学（演習を含む） 食とことば 食卓美学（演習を含む） 食行動の心理学 食のマーケティング おもてなし・ホスピタリティ論（演習を含む）	嗜好品の文化（演習を含む） 家庭料理論 食の分析評価論（演習を含む） 薬膳料理文化演習 食品の調理加工学（演習を含む） 現代の食文化事情 献立と美味論 フードサービス論 フードコーディネート論 フードマネージメント論 食の企画と演出（演習を含む） カラーコーディネート論（演習を含む） 食のマナー（演習を含む）
演習	・健康づくりに関わる研究の進め方についての基礎知識を修得できる。 ・自らの研究課題を設定するために、健康に関わる情報を収集し、科学的な根拠をもとに的確に判断、評価できる。 ・健康に関わる問題に対して論理的に思考し、自らの研究課題を設定できる。			健康栄養学演習	
卒業研究	・自らの研究課題に沿って、研究計画を立て、科学的手法を用いて研究を進めることができる。 ・自らの研究成果について、他人の考えに協調し、相互理解しながら、客観的かつ論理的に表現することができる。 ・健康づくりに関わる実践的研究をとおして、広い視野で社会の変化を捉え、多様な人々とつながり、協働することで問題点を把握し、解決策を立案する力を身につけることができる。				卒業研究

DP

健康栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材養成の基本方針とする。
1．栄養学を基礎とし、運動や食文化に関する専門的知識と技能を備え、健康管理・健康教育を実践できる
2．エビデンスに基づく食・栄養・運動に対する識見を備えている
3．人々の幸福な生活のために、食・栄養・運動の側面から支援や相談を担う態度と専門性を具備している
4．健康生活を推進していくための企画立案力・実践力を有し、多様な人々とのつながりや協働を生み出す資質を備える
5．人生100年時代において、誰もが健康で活力ある生活を送る社会実現に貢献できる

CP

健康栄養学科では、栄養士養成を基盤として、運動と食文化の分野における専門知識や技能を身につけ、理解することにより、すべての人々が心身ともに健康で活力ある幸福な生活を送る【健幸】のために、多様な人々とのつながりや協働を生み出すことができる人材を育成することが教育研究上の目的である。このことを実現するための教育課程の編成方針は次のとおりである。
1．栄養士養成の教育課程を基盤とし、運動や食文化の専門知識や技能を展開、統合して、社会の健康づくりに貢献できる人材育成のためのカリキュラムを編成する
2．栄養領域では、健康づくりのスペシャリストとしての動機づけと意識を高めるための入門科目と、講義や実験・実習、校外実習科目を通して栄養学の基礎的知識と技術を修得し、栄養士として必要な資質や能力を培う
3．健康運動領域・食文化領域では、演習、実技などの多様な科目を展開することで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける
4．栄養領域、食文化領域を展開、統合させ、総合的理解とキャリア意識の醸成を図る教育課程の編成とする

Ⅱ-2 人間生活学部　食物栄養学科（NB）

〈専門科目教育課程〉［2023年度生］

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必　修	38単位	90単位以上
	選　択	52単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～58参照）
- 専門科目から、必修科目38単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、 6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目52単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目60単位取得した場合は、 8 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	専門基礎領域	社会・環境と健康	健康管理概論		※2	講義			○						×	
			公衆衛生学	2		講義	○								×	
			公衆衛生学実験		※1	実験		○							×	
			健康情報処理実習	1		実習			○						×	
			社会福祉概論		※※2	講義		○							×	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2		講義		○							×	
			解剖生理学実験		※※1	実験			○						×	
			運動生理学		2	講義					○				×	
			人間生物化学	2		講義		○							×	
			人間生物化学実験		※※1	実験				○					×	
			人間生活生理学		※※2	講義				○					×	
			医学概論	2		講義			○						×	
			病態生理学		※※2	講義				○					×	
			系統別疾病学		※2	講義					○				×	
			病原物質・微生物学		※2	講義					○				×	
			微生物学実験		※1	実験						○			×	△
		食べ物と健康	食物栄養学概論		※2	講義		○							×	
			食品学Ⅰ	2		講義	○								×	
			食品学Ⅱ	2		講義		○							×	
			食品化学		2	講義						○			×	
			食品化学実験		※※1	実験		○							×	
			食品加工学		※※1	講義			○						×	
			食品加工学実習		※1	実習			○						×	
			栄養化学		2	講義					○				×	

[食物栄養学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	専門基礎領域	食べ物と健康	調理学	2		講義	○								×	
			調理学実習Ⅰ	1		実習	○								×	
			調理学実習Ⅱ	1		実習		○							×	
			調理学実習Ⅲ（実験を含む）		※1	実習				○					×	
			調理学実習Ⅳ		1	実習						○			×	
			食品衛生学		※※2	講義		○							×	
			食品衛生学実験		※※1	実験			○						×	
	応用領域	基礎栄養学	基礎栄養学	2		講義	○								×	
			栄養学	2		講義		○							×	
			基礎栄養学実験		※※1	実験	○								×	
		応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		講義			○						×	
			応用栄養学Ⅱ		※2	講義				○					×	
			応用栄養学Ⅲ		※2	講義								○	×	
			応用栄養学実習		※※1	実習					○				×	△
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2		講義			○						×	
			栄養教育論Ⅱ		※※2	講義				○					×	
			栄養教育論実習Ⅰ		※※1	実習				○					×	
			栄養教育論実習Ⅱ		※※1	実習					○				×	△
			カウンセリング論（演習を含む）		※2	講義･演習						○			×	△
	展開領域	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2		講義				○					×	
			臨床栄養学Ⅱ		※※2	講義					○				×	
			臨床栄養学Ⅲ		※2	講義						○			×	
			臨床栄養学Ⅳ		※2	講義							○		×	△
			臨床栄養学実習Ⅰ		※※1	実習					○				×	
			臨床栄養学実習Ⅱ		※1	実習						○			×	△
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2		講義					○				×	
			公衆栄養学Ⅱ		※2	講義						○			×	△
			公衆栄養学実習		※※1	実習						○			×	△
		給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2		講義			○						×	
			給食経営管理論Ⅱ		※※2	講義				○					×	
			給食経営管理論実習		※※1	実習					○				×	△
	実践領域	総合演習	総合演習Ⅰ	1		演習						○		○	×	3年・4年連続履修
			総合演習Ⅱ		※2	演習								○	×	
		臨地実習	臨床栄養臨地実習Ⅰ		※1	実習								○	×	△ 管理栄養士の受験資格を取得するためには、3科目3単位以上を履修すること
			臨床栄養臨地実習Ⅱ		※1	実習								○	×	△
			公衆栄養臨地実習		※1	実習								○	×	△
			給食経営管理臨地実習		※1	実習								○	×	△
			給食運営臨地実習		※※1	実習						○			×	△

[食物栄養学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	食物栄養関連科目	人間栄養学概論		2	講義	○								×	
		食事計画論Ⅰ（演習を含む）		2	講義･演習		○							×	
		食事計画論Ⅱ（演習を含む）		2	講義･演習			○						×	
		食薬理学		2	講義							○		○	
		食品機能論		2	講義						○			○	
		生物有機化学		2	講義	○								×	
		分子栄養学		2	講義						○			×	
		食生活論		2	講義							○		○	
		食文化論		2	講義				○					○	
		食育論		2	講義							○		○	
		栄養疫学（演習を含む）		2	講義･演習					○				×	
		スポーツ栄養学		2	講義						○			×	
		管理栄養士のための経営学		2	講義							○		×	
		栄養学専門外国語		2	講義							○		×	
		食物栄養学演習	2		演習					○				×	
	卒業研究	卒業研究	4		演習							○		×	

[「卒業研究」の履修について]

註１：「卒業研究」履修のためには、「食物栄養学演習」を修得していること。

註２：原則として、「食物栄養学演習」履修のためには、卒業要件科目のうち、２年次終了時までに60単位以上を修得していること。

註３：原則として、教育課程表の備考欄に△の付された選択科目を履修するためには、２年次終了時までに、学科専門科目の卒業必修単位29単位のうち21単位以上を修得していること。

[資格の履修について]

註１：栄養士資格を取得するためには、単位数欄にある※※印の選択科目をすべて履修しなければならない。

註２：管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、単位数欄にある※※印の選択科目及び※印の選択科目をすべて履修しなければならない。
そのうち、「臨床栄養臨地実習Ⅰ」「臨床栄養臨地実習Ⅱ」「公衆栄養臨地実習」「給食経営管理臨地実習」より、３科目３単位以上を履修すること。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

食物栄養学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	分野	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
専門基礎領域	社会・環境と健康	1．公衆衛生学、健康管理概論、健康情報処理実習、社会福祉概論分野における基礎知識を理解する。 2．社会・環境と健康の分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する。 3．社会・環境と健康の分野における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する。	公衆衛生学 人間栄養学概論＊	公衆衛生学実験 社会福祉概論	健康管理概論 健康情報処理実習					
専門基礎領域	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	1．解剖生理学、運動生理学、人間生物化学、医学概論、病態生理学、系統別疾病学、病原物質・微生物学分野における基礎知識を理解する。 2．人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する。 3．人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの分野における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する。		解剖生理学 人間生物化学	解剖生理学実験 医学概論	人間生活生理学 人間生物化学実験 病態生理学	運動生理学 系統別疾病学 病原物質・微生物学	分子栄養学＊ 微生物学実験		
専門基礎領域	食べ物と健康	1．食品学・調理学・食品衛生学における基本的な理論・概念、科学的な考え方について理解する。 2．食べ物と健康の分野における実践的な方法と専門的知識について習得する。 3．食べ物と健康の分野における管理栄養士のガイドラインに基づいた体系的な理解を深める。	食品学Ⅰ 生物有機化学＊ 調理学 調理学実習Ⅰ	食品学Ⅱ 食品化学実験 食品衛生学 調理学実習Ⅱ 食物栄養学概論 食事計画論Ⅰ（演習を含む）＊	食品加工学 食品加工学実習 食品衛生学実験 食事計画論Ⅱ（演習を含む）＊	調理学実習Ⅲ（実験を含む） 食文化論＊	栄養化学	食品化学 食品機能論＊ 調理学実習Ⅳ	食薬理学＊	
応用領域	基礎栄養学	1．基礎栄養学の分野における基礎知識を理解する。 2．基礎栄養学の分野における基礎知識に基づき、実験・実習を通して体系的に理解する。 3．基礎栄養学の分野における管理栄養士ガイドラインに基づいて専門職としての能力を修得する。	基礎栄養学 基礎栄養学実験	栄養学						
応用領域	応用栄養学	1．栄養状態や心身機能に応じた栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の基本的な考え方について、講義により理解する。 2．食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠について、講義や実習を通して習得する。 3．各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について、講義や実習を通して習得する。			応用栄養学Ⅰ	応用栄養学Ⅱ	応用栄養学実習	スポーツ栄養学＊	食生活論＊ 食育論＊	応用栄養学Ⅲ
応用領域	栄養教育論	1．行動科学の理論やモデル、アセスメントからはじまる栄養教育プログラムのPDCAなどについて、講義を通じて理解する。 2．プレゼンテーションやカウンセリングなどのスキルを持ち、個人や集団、環境への働きかけ方を、実習や演習を通して習得する。 3．ライフステージや疾病の異なる対象者に寄り添い、専門的知識を基礎に、問題解決への支援となる栄養教育ができる能力を習得する。			栄養教育論Ⅰ	栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ	栄養教育論実習Ⅱ	カウンセリング論（演習を含む）		
展開領域	給食経営管理論	1．給食の運営および給食経営管理に関わる基礎および専門知識について理解、修得する。 2．実習により基礎的、専門的な知識を体系的に理解し、給食運営におけるシステム化やマネジメント能力、経営管理のダイナミックな展開につなげる実践的な技術と能力を修得する。 3．給食の運営および給食経営管理に関わる問題に対して、論理的に思考し、解決に向けて意欲的に取組む態度、適切な解決策を提案する能力を修得する。			給食経営管理論Ⅰ	給食経営管理論Ⅱ	給食経営管理論実習			
展開領域	臨床栄養学	1．傷病者および要介護者に対する、科学的根拠に基づいた栄養管理について、講義により理解する。 2．傷病者および要介護者の栄養管理に必要なコミュニケーション能力をグループ学習・発表、ロールプレイ等により身につけ、栄養状態を改善するための栄養の指導の能力を講義や実習を通して習得する。 3．傷病者および要介護者の栄養に関連した問題に対して、論理的に思考し、適切な解決策を提案する能力を講義や実習を通して習得する。				臨床栄養学Ⅰ	臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	臨床栄養学Ⅳ	
展開領域	公衆栄養学	1．地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動について講義により理解する。 2．地域社会の健康・栄養問題及び関連要因の把握、課題分析を行う能力を習得する。 3．健康・栄養施策の計画立案、実践、モニタリング・評価、フィードバックを行う公衆栄養管理能力の基礎を習得する。					公衆栄養学Ⅰ 栄養疫学（演習を含む）＊	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	管理栄養士のための経営学＊ 栄養学専門外国語＊	
実践領域	総合演習	1．臨地実習に臨むために必要な実践的な事項に関して理解、修得する。 2．臨地実習において課題を行うために必要な技術や知識などを修得する。 3．臨地実習終了後に臨地実習で取り組んだことや学んだことをまとめ、発表する技術を修得する。 4．各領域で学んだ知識を統合して、管理栄養士に求められる識見を備える。					総合演習Ⅰ		総合演習Ⅱ	
実践領域	臨地実習	1．管理栄養士資格取得に必須の講義、演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験・実習について、体系的に理解する。 2．管理栄養士資格取得に必須の演習・実験・実習科目ならびに関連科目の演習、実験・実習について、専門知識と技術を統合できる。 3．管理栄養士として、課題発見・問題解決のための方途を理解し、実践する能力を修得する。					給食運営臨地実習		給食経営管理臨地実習 臨床栄養臨地実習Ⅰ 臨床栄養臨地実習Ⅱ 公衆栄養臨地実習	
実践領域	卒業研究	1．科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養う。 2．自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養う。 3．食と栄養を通し、人々の健康に貢献するため、課題解決能力と実践力を修得する。					食物栄養学演習＊		卒業研究	

DP

食物栄養学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材養成の方針とする。
1．科学的根拠に基づく食・栄養・健康に対する識見を備え、人々の【健幸】の実現に寄与できる
2．食・栄養・健康の問題を解決するために、適切な栄養管理・栄養教育を実践できる
3．社会的視野を備え、保健、医療、福祉、教育、産業において栄養の専門職であることを自覚し、自ら考え行動できる
4．食・栄養・健康の問題に対して、食環境整備の視点に立ち、社会・地域・コミュニティ・組織や家族へ働きかけができ、改善を導くための能力を有する
そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

CP

食物栄養学科では、人間栄養学を基盤とする食・栄養・健康の専門知識・技能を有し、健康や食生活の問題に取り組み、的確な栄養管理をできる人材の育成を教育研究上の目的としている。そのため、基礎的な内容から総合的・統合的な内容へ、順次学修を発展させるカリキュラムとして、専門基礎領域・応用領域・展開領域・実践領域の4領域を設定している。
専門基礎領域；社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康
応 用 領 域；基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論
展 開 領 域；臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論
実 践 領 域；総合演習、臨地実習、卒業研究
さらに各領域には、食物栄養関連科目として、より専門性の高い講義や演習科目を配置している。

＊教育課程表の食物栄養関連科目
1．各領域に関連した講義・演習を通じて、食・栄養・健康の基礎知識を修得する。
2．各領域に関連した演習を通して、食・栄養・健康に関する、より専門性の高い知識や信憑性の高い情報を収集する能力、問題を論理的に思考し説明する能力を養う。
3．各領域に関連した演習を通して、探求する意欲と態度を身につけ、食・栄養・健康に関する問題解決に向けて行動できる能力を習得する。
4．各領域に関連した講義・演習を通して、社会に貢献する視点を育み、生涯にわたり研鑽する意欲と態度を身につける。

Ⅱ-3 人間生活学部　食品開発学科（NC）

〈専門科目教育課程〉[2023年度生]

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必　修	86単位	90単位以上
	選　択	4単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目8単位、選択必修科目6単位を含めた22単位以上を履修（P.56～58参照）
- 専門科目から、必修科目86単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目4単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目10単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a～c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。
ただし、備考欄に※のある科目は開講する時期に変更が生じる可能性があるため、学科教員の指示に従って履修すること。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	食のおいしさ	おいしさの調理学	2		講義	○								×	
		食品開発基礎実習Ⅰ	2		実習	○								×	
		食品開発基礎実習Ⅱ	2		実習		○							×	
		食品物性論	2		演習				○					×	
		食品物性論演習Ⅰ	2		演習					○				×	
		食品物性論演習Ⅱ		2	演習							○		×	
		おいしさの生理学	2		講義				○					×	
		食品フレーバーの化学		2	講義							○		×	
		食品の官能評価学	2		講義					○				×	
		食品の官能評価学演習	2		演習					○				×	
		製パン・製菓実習Ⅰ		2	実習			○	○					×	※
		製パン・製菓実習Ⅱ		2	実習			○	○					×	※
	食の開発	食品開発学概論	2		講義		○							×	
		食品開発実習	2		実習			○						×	
		食品加工学	2		講義			○						×	
		食品の加工学実習Ⅰ	2		実習			○						×	
		食品の加工学実習Ⅱ	2		実習				○					×	
		食パッケージデザイン演習		2	演習							○		×	
		発酵食品開発学		2	演習						○			×	
		発酵食品開発学実験		2	実験							○		×	
		食医学		2	講義						○			○	
		食農体験	2		実習			○						×	
		地域食品企画演習		2	演習							○		×	
		食品開発プレゼンテーション演習		2	演習					○				×	
		商品開発インターンシップ		1	実習					○				×	
	食の科学	栄養生理学	2		講義	○								×	
		ライフステージの栄養学		2	講義		○							×	
		食品成分の化学	2		講義	○								×	
		食品の特性	2		講義		○							×	
		食の定性分析実験	2		実験	○								×	

[食品開発学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	食の科学	食の定量分析実験	2		実験		○							×	
		統計学演習Ⅰ	2		演習		○							×	
		統計学演習Ⅱ		2	演習			○						×	
		食品安全学基礎	2		講義			○						×	
		基礎化学	2		講義	○								×	
		有機化学	2		講義	○								×	
		基礎生物化学	2		講義		○							×	
		基礎微生物学	2		講義	○								×	
		食品微生物学	2		講義			○						×	
		食品微生物学実験	2		実験				○					×	
		動物・植物生理学	2		講義	○								×	
	食の安全・安心と機能性	食品衛生学	2		講義		○							×	
		食品衛生学実験	2		実験			○						×	
		公衆衛生学	2		講義				○					×	
		食品・開発関連法規	2		講義					○				×	
		食品安全学	2		講義				○					×	
		食品の安全性評価論	2		講義				○					×	
		食品の安全性評価演習Ⅰ		2	演習					○				×	
		食品の安全性評価演習Ⅱ		2	演習							○		×	
		食品分析学	2		講義			○						×	
		食品分析学実験	2		実験				○					×	
		食品免疫学	2		講義					○				×	
		食品免疫学実験Ⅰ		2	実験						○			×	
		食品免疫学実験Ⅱ		2	実験							○		×	
		食品機能学	2		講義				○					×	
		機能性評価論	2		講義				○					×	
		機能性評価論演習		2	演習					○				×	
		機能性評価論実験Ⅰ		2	実験						○			×	
		機能性評価論実験Ⅱ		2	実験								○	×	
	食のビジネス	食料経済		2	講義					○				×	
		食空間デザイン論		2	講義					○				×	
		フードマネジメント論		2	講義			○						×	
		フードマーケティング論		2	講義				○					×	
		フードコーディネート論		2	講義					○	○			×	※
		フードコーディネート実習		2	実習					○	○			×	※
		フードスペシャリスト論		2	講義					○	○			×	※
		食生活論		2	講義					○	○			×	※
		食文化概論		2	講義					○	○			×	
		食品開発外国語演習	2		演習					○				×	
		フードサービス・ホスピタリティ演習		2	演習						○			×	
		カフェ実習		2	実習						○			×	
	演習	食品開発学演習	2		演習					○				×	
	卒業研究	卒業研究	4		演習							○		×	

[「卒業研究」の履修について]

註１：「卒業研究」履修のためには、「食品開発学演習」を修得していること。

註２：原則として、「食品開発学演習」は以下の２つの条件を満たしている場合に履修可能である。

①２年次終了時までに「食品開発学概論」の単位を修得していること。

②２年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち62単位以上であること。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

食品開発学科　カリキュラムマップ

□ → 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
食のおいしさ	・食品開発に必要な調理や食品加工の基礎を修得することができる。 ・食のおいしさを科学的に分析するための知識と技術を修得することができる。 ・おいしさについてより実践的に学び、高度な知識と技術を修得することができる。	おいしさの調理学 食品開発基礎実習Ⅰ 食品開発基礎実習Ⅱ	おいしさの生理学 食品物性論 製パン・製菓実習Ⅰ 製パン・製菓実習Ⅱ	食品の官能評価学 食品の官能評価学演習 食品物性論演習Ⅰ	食品フレーバーの化学 食品物性論演習Ⅱ
食の開発	・食の開発についての方途を具体的に修得することができる。 ・地域連携による食の開発を実践することができる。 ・プレゼンテーション能力を修得し、実践力を向上させることができる。	食品開発学概論	食品開発実習 食品加工学 食品の加工学実習Ⅰ 食品の加工学実習Ⅱ 食農体験	発酵食品開発学 食医学 食品開発プレゼンテーション演習 商品開発インターンシップ	発酵食品開発学実験 地域食品企画演習 食パッケージデザイン演習
食の科学	・食品開発の基礎となる知識を修得し、分析技術を修得することができる。 ・科学的根拠に立脚し、論理的に思考・判断することができる。 ・食の専門家としての倫理観、責任感を修得することができる。	食品成分の化学 食品の特性 食の定性分析実験 食の定量分析実験 基礎化学 有機化学 基礎生物化学 基礎微生物学 統計学演習Ⅰ 動物・植物生理学 栄養生理学 ライフステージの栄養学	食品安全学基礎 食品微生物学 食品微生物学実験 統計学演習Ⅱ		
食の安全・安心と機能性	・食や食品開発に関わる法的根拠、ならびに知的財産に関連することがらを学ぶことができる。 ・食の安全・安心と機能性に関する基礎的な知識と技術を修得することができる。 ・高度な演習・実験・実習を行い、専門性の高い知識と技術を修得することができる。	食品衛生学	食品衛生学実験 公衆衛生学 食品安全学 食品の安全性評価論 食品分析学 食品分析学実験 食品機能学 機能性評価論	食品・開発関連法規 食品免疫学 食品免疫学実験Ⅰ 食品の安全性評価演習Ⅰ 機能性評価論演習 機能性評価論実験Ⅰ	食品免疫学実験Ⅱ 食品の安全性評価演習Ⅱ 機能性評価論実験Ⅱ
食のビジネス	・食品開発のプロセスや成果を国際的に発信する能力や、食品開発にかかる研究領域において活躍できる能力を修得することができる。 ・実践的な高度な能力を修得することができる。		フードマネジメント論 フードマーケティング論	食品開発外国語演習 食料経済 食空間デザイン論 フードコーディネート論 フードコーディネート実習 フードスペシャリスト論 食生活論 食文化概論 フードサービス・ホスピタリティ演習 カフェ実習	
演習	・食に関わる基礎的知識と食のおいしさ、開発、安全・安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を修得することができる。 ・科学的根拠に立脚し、理論的に思考、判断できる能力を養うことができる。 ・食に関わるさまざまな課題に関心をもち、自主的、継続的に学修する意欲と態度を修得することができる。			食品開発学演習	
卒業研究	・科学的議論を通して、研究やプレゼンテーション能力を養うことができる。 ・思考力や応用力、専門的な知識や技能を深め、PDCAの全ステップを遂行することができる。 ・自ら設定した課題について、科学的な手法を用いて分析を行い、客観的かつ論理的に表現する能力を養うことができる。				卒業研究

DP

食品開発学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材養成の方針とする
1．食品学、食品分析学、食品加工学など食のおいしさ・食品開発の基盤となる領域に関する専門的知識を備えている
2．食品に関する化学や生物学などの基礎的知識を修得した上で、食の安全や安心確保のためのリスク分析、おいしさの分析や評価、食品の機能性に関する分析の専門的知識と技術を備えている
3．人々の健康で幸福な生活【健幸】を支援するという視点から、様々なニーズに応える食品の開発と食サービスを社会に還元する意欲を備えている
4．専門科目における学修を通して、科学的根拠に立脚した判断力、健康の保持増進に寄与する行動力、食品を創造し、開発する能力を備えている

CP

食品開発学科では、食に関わる基礎的知識、おいしさ、開発、安全・安心、機能性、ビジネスに関する専門的知識を備えた人材を養成する。さらに、高度な食品開発研究を推進するとともに、農業体験、カフェ実習、インターンシップに参画するとともに、卒業研究を通して高度な専門性を活用した課題解決能力を育成する。これらの学修により、多様なニーズに応えることができる食品開発の専門性を修得させることが本学科の特色である。

Ⅱ-4 人間生活学部　人間福祉学科（ND）

〈専門科目教育課程〉[2023年度生]

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必　修	27単位	90単位以上
	選　択	63単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から、必修科目27単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、 6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目63単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目70単位取得した場合は、 7 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	社会福祉基礎科目	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	○								×	＊
		社会福祉概論Ⅱ	2		講義		○							×	
		高齢者に対する支援と介護保険制度	2		講義			○						×	＊
		児童・家庭福祉論	2		講義	○								×	＊
		障害者福祉論	2		講義		○							×	
		医学一般		○●2	講義	○								×	＊
		権利擁護と成年後見制度		○●△2	講義					○				×	
		心理学理論と心理的支援		○●2	講義					○				×	＊
		社会保障論Ⅰ	2		講義					○				○	＊
		ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義		○							×	＊
		社会的養護Ⅰ		▲2	講義			○						×	
		地域福祉論Ⅰ	2		講義			○						×	＊
	ソーシャルワーク専門科目	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義			○						×	＊
		ソーシャルワーク論Ⅲ		○△2	講義				○					×	
		ソーシャルワーク論Ⅳ		○△2	講義					○				×	
		ソーシャルワーク論Ⅴ		○△2	講義						○			×	
		ソーシャルワーク論Ⅵ		○△2	講義							○		×	
		地域福祉論Ⅱ		○△2	講義				○					×	＊
		社会調査の基礎		○2	講義			○						×	＊
		福祉行財政と福祉計画		2	講義						○			×	＊
		社会理論と社会システム		○2	講義				○					×	＊
		公的扶助論	2		講義					○				×	＊
		保健医療サービス論		○2	講義					○				×	

[単位数欄の記号について]

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。　註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。　註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	ソーシャルワーク専門科目	社会保障論Ⅱ		○●△2	講義						○			×	*
		更生保護制度		○2	講義						○			×	
		社会福祉施設経営論		○2	講義						○			×	*
		相談援助演習Ⅰ		○1	演習		○							×	
		相談援助演習Ⅱ		○1	演習			○						×	
		相談援助演習Ⅲ		○1	演習				○		○			×	
		相談援助演習Ⅳ		○1	演習					○		○		×	
		相談援助演習Ⅴ		○1	演習						○		○	×	
	ケアワーク専門科目	基礎介護論Ⅰ		●2	講義	○								×	介護のみ
		基礎介護論Ⅱ		●2	講義		○							×	介護のみ
		介護と倫理		●2	講義			○						×	介護のみ
		介護と環境		●2	講義					○				×	介護のみ
		コミュニケーション技術Ⅰ		●1	演習		○							×	介護のみ
		コミュニケーション技術Ⅱ		●1	演習			○						×	介護のみ
		生活支援技術概論		●1	演習	○								×	介護のみ
		日常生活支援技術Ⅰ		●1	演習	○								×	介護のみ
		日常生活支援技術Ⅱ		●1	演習		○							×	介護のみ
		日常生活支援技術Ⅲ		●1	演習		○							×	介護のみ
		生活環境支援技術		●1	演習				○					×	介護のみ
		家事生活支援技術		●1	演習			○						×	介護のみ
		生活支援技術応用Ⅰ		●1	演習			○						×	介護のみ
		生活支援技術応用Ⅱ		●1	演習				○					×	介護のみ
		生活支援技術展開Ⅰ		●1	演習			○						×	介護のみ
		生活支援技術展開Ⅱ		●1	演習						○			×	介護のみ
		介護過程基礎Ⅰ		●2	講義		○							×	介護のみ
		介護過程基礎Ⅱ		●2	講義			○						×	介護のみ
		介護過程展開Ⅰ		●1	演習				○					×	介護のみ
		介護過程展開Ⅱ		●1	演習					○				×	介護のみ
		介護サービス計画		●2	講義						○			×	介護のみ
		発達と老化Ⅰ		●2	講義	○								×	
		発達と老化Ⅱ		●2	講義		○							×	
		認知症の理解Ⅰ		●2	講義			○						×	
		認知症の理解Ⅱ		●1	演習				○					×	
		障がいの理解Ⅰ		●△2	講義			○						×	
		障がいの理解Ⅱ		●△2	講義				○					×	
		こころとからだのしくみⅠ		●2	講義			○						×	
		こころとからだのしくみⅡ		●2	講義				○					×	
		医療を必要とする人への介護Ⅰ		●2	講義					○				×	介護のみ
		医療を必要とする人への介護Ⅱ		●2	講義					○				×	介護のみ
		医療を必要とする人への介護Ⅲ		●2	講義						○			×	介護のみ
		医療を必要とする人への介護Ⅳ		●1	演習						○			×	介護のみ

[単位数欄の記号について]

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。　註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。　註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	保育専門科目	保育原理		▲2	講義	○								×	
		教育原理		▲2	講義				○					×	
		保育者論		▲2	講義					○				×	保育のみ
		保育の心理学		▲2	講義	○								×	
		子ども家庭支援の心理学		▲2	講義		○							×	保育のみ
		子どもの保健		▲2	講義			○						×	
		子どもの健康と安全		▲2	演習				○					×	保育のみ
		子どもの理解と援助		▲2	演習		○							×	保育のみ
		子どもの食と栄養		▲2	演習			○						×	保育のみ
		子ども家庭支援論		▲2	講義				○					×	保育のみ
		保育の計画と評価		▲2	講義					○				×	保育のみ
		保育内容総論		▲1	演習		○							×	保育のみ
		保育内容演習Ⅰ（健康）		▲2	演習		○							×	保育のみ
		保育内容演習Ⅱ（人間関係）		▲2	演習			○						×	保育のみ
		保育内容演習Ⅲ（環境）		▲2	演習				○					×	保育のみ
		保育内容演習Ⅳ（言葉）		▲2	演習			○						×	保育のみ
		保育内容演習Ⅴ（表現）		▲2	演習					○				×	保育のみ
		保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）		▲2	演習	○								×	保育のみ
		保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係）		▲2	演習		○							×	保育のみ
		保育内容の理解と方法Ⅲ（環境）		▲2	演習			○						×	保育のみ
		保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）		▲2	演習		○							×	保育のみ
		保育内容の理解と方法Ⅴ（表現）		▲2	演習				○					×	保育のみ
		乳児保育Ⅰ		▲2	講義			○						×	保育のみ
		乳児保育Ⅱ		▲1	演習				○					×	保育のみ
		障害児保育		▲2	演習			○						×	保育のみ
		社会的養護Ⅱ		▲1	演習				○					×	保育のみ
		社会的養護Ⅲ		▲1	演習					○				×	保育のみ
		子育て支援Ⅰ		▲2	演習					○				×	保育のみ
		子育て支援Ⅱ		▲2	演習						○			×	保育のみ
		ピアノ		△1	演習	○	○	○	○	○	○	○	○	×	保育のみ
		発達障害の理解		△2	講義				○					×	
		保育サービス論		2	講義							○		×	
	社会福祉実践科目	相談援助実習指導Ⅰ		○1	演習			○						×	
		相談援助実習指導Ⅱ		○1	演習				○		○			×	
		相談援助実習指導Ⅲ		○2	演習					○		○		×	
		社会福祉実習		○4	実習					○		○		×	
		介護総合演習Ⅰ		●1	演習		○							×	介護のみ
		介護総合演習Ⅱ		●1	演習				○					×	介護のみ
		介護総合演習Ⅲ		●1	演習					○				×	介護のみ
		介護総合演習Ⅳ		●1	演習						○			×	介護のみ

[単位数欄の記号について]

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。　註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。　註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[人間福祉学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	社会福祉実践科目	介護実習Ⅰ		●2	実習		○							×	介護のみ
		介護実習Ⅱ-1		●4	実習				○					×	介護のみ
		介護実習Ⅱ-2		●4	実習					○				×	介護のみ
		保育実践演習		▲2	演習						○			×	保育のみ
		保育実習ⅠA		▲2	実習					○	○			×	保育のみ
		保育実習ⅠB		▲2	実習					○	○			×	保育のみ
		保育実習指導Ⅰ		▲2	演習			○						×	保育のみ
		保育実習Ⅱ		★△2	実習						○	○		×	保育のみ 3年生は後期 4年生は前期
		保育実習指導Ⅱ		★△1	演習					○				×	保育のみ
		保育実習Ⅲ		☆△2	実習						○	○		×	保育のみ 3年生は後期 4年生は前期
		保育実習指導Ⅲ		☆△1	演習					○				×	保育のみ
	社会福祉展開科目	福祉と食		2	講義		○							○	
		行政福祉論		2	講義						○			×	
		介護基礎		2	講義	○								×	
		手話		2	講義		○		○		○		○	×	
		多職種連携論		2	講義	○		○		○		○		○	
		医療ソーシャルワーク論		2	講義					○		○		○	
	演習	人間福祉基礎演習	1		演習			○						×	
		人間福祉演習	2		演習					○				×	
	卒業研究	卒業研究	4		演習							○		×	

保育士資格取得希望者は★印の2科目3単位又は、☆印の2科目3単位以上を履修すること

[単位数欄の記号について]

註：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。　註：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。

註：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。　註：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

[「卒業研究」の履修について]

註１：「卒業研究」を履修するには、「入門ゼミナール」、「人間福祉基礎演習」、「人間福祉演習」をすべて修得していること。

註２：「人間福祉演習」を履修するためには、60単位以上修得していること。

[資格の履修について]

註１：社会福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある○印の科目を全て履修しなければならない。

註２：介護福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある●印の科目を全て履修しなければならない。

註３：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある▲印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある△印から４単位以上履修すること。そのうち「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」、または「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」のどちらか３単位以上を履修しなければならない。

註４：社会福祉主事任用資格の取得のためには、備考欄に＊印がついている科目のうち、３科目以上を履修しなければならない。ただし、「社会福祉概論」「社会保障論」「地域福祉論」は「ⅠとⅡ」の両方を、「ソーシャルワーク論」は「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を合わせて取得して１科目の履修とする。

[「保育のみ」の演習科目の履修について]

註：備考に「保育のみ」と記載のある科目のうち、「演習科目」については、１クラスあたりの履修者数に法令上の上限があるため、原則として保育士資格取得希望者のみ履修可能とする。ただし、定員に空きがある場合に限って、他の学生の受講を認める。保育士資格を取得しない学生が履修を希望する場合には、事前に科目担当者に相談すること。

[「介護のみ」の履修について]

註：備考に介護のみと記載のある科目は、原則介護福祉士養成課程の学生のみ受講可。
介護福祉士養成課程以外の学生の受講に関しては、当該年度の養成課程の所属人数によって、１年次科目の受講は可とし、２年次以降の科目は科目担当者が判断する。（履修に関しては学生より直接担当教員へ相談すること）

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

人間福祉学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目　→ 介護のみ　→ 保育のみ

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
社会福祉基礎科目	社会福祉に関連する主要な法・制度ついて、説明することができる。 社会福祉に関連する主要な法・制度のおよその概要と対応するおよその福祉分野の現状とその課題について、 ・自分の見解を 形成することができる。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値に基づいた自分の批判的な見解を述べることができる。	社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ 児童・家庭福祉論 障害者福祉論 医学一般 ソーシャルワーク論Ⅰ	高齢者に対する支援と介護保険制度 社会的養護Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	権利擁護と成年後見制度 心理学理論と心理的支援 社会保障論Ⅰ	
ソーシャルワーク専門科目	・社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を理解し、相談援助の展開課程に必要な理論や技術を用いて、課題解決に向けた方法を論理的思考に基づいて自ら提案することができる。 ・専門的援助関係の形成に必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得できる。また、実習経験後の個別的な体験を一般化・理論化できるまでに理解を深める。 ・ソーシャルワークにおける専門職倫理を理解し、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し、問題意識を自ら持つことができる。	相談援助演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅲ 地域福祉論Ⅱ 社会調査の基礎 社会理論と社会システム 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ	ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅴ 福祉行財政と福祉計画 公的扶助論 保健医療サービス論 社会保障論Ⅱ 更生保護制度 社会福祉施設経営論 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ	ソーシャルワーク論Ⅵ
ケアワーク専門科目	・福祉的支援を必要とする人々への生活支援に関する理論の基本的枠組みを習得することができる。 ・福祉的支援を必要とする人々へのコミュニケーションスキルを習得し、その専門的援助関係の基本を構築することができる。 ・援助・支援に関する理論や知識を統合し、実習教育においての個別の事例に合わせて介護計画を立案し、実施することができる。	基礎介護論Ⅰ 基礎介護論Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術概論 日常生活支援技術Ⅰ 日常生活支援技術Ⅱ 日常生活支援技術Ⅲ 介護過程基礎Ⅰ 発達と老化Ⅰ 発達と老化Ⅱ	介護と倫理 コミュニケーション技術Ⅱ 生活環境支援技術 家事生活支援技術 生活支援技術応用Ⅰ 生活支援技術応用Ⅱ 生活支援技術展開Ⅰ 介護過程基礎Ⅱ 介護過程展開Ⅰ 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ 障がいの理解Ⅰ 障がいの理解Ⅱ こころとからだのしくみⅠ こころとからだのしくみⅡ	介護と環境 生活支援技術展開Ⅱ 介護過程展開Ⅱ 介護サービス計画 医療を必要とする人への介護Ⅰ 医療を必要とする人への介護Ⅱ 医療を必要とする人への介護Ⅲ 医療を必要とする人への介護Ⅳ	
保育専門科目	・保育に関する法・制度の概要を理解し、児童の発達に即した保育を展開することができる。 ・事例検討・グループワーク・実習経験等を通して必要なニーズを把握・分析し、保育を構想することができる。 ・子どもを取り巻く現状とその課題について関心をもち、子どもの最善の利益という価値に基づき自らの見解を述べることができる。	保育原理 保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 保育内容総論 保育内容の理解と方法Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係） 保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉） 保育内容演習Ⅰ（健康）	教育原理 子どもの保健 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養 保育内容の理解と方法Ⅲ（環境） 保育内容の理解と方法Ⅴ（表現） 保育内容演習Ⅱ（人間関係） 保育内容演習Ⅲ（環境） 保育内容演習Ⅳ（言葉）	保育者論 保育の計画と評価 保育内容演習Ⅴ（表現） 社会的養護Ⅲ 子育て支援Ⅰ 子育て支援Ⅱ	保育サービス論
			乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 障害児保育 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援論 発達障害の理解		
		ピアノ			
社会福祉実践科目	・指導・支援に係る知識と技術を統合し、個別の学習到達目標を達成できるように、実習での日々の学習内容や実習後の学習成果を言語化し、他者に伝えることができる。 ・実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解した上で、信頼関係の構築や指導、支援計画の立案、具体的な援助方法、多職種協働、評価方法について実践的に学修する。 ・人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得することができる。	介護総合演習Ⅰ 介護実習Ⅰ	相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護実習Ⅱ-1 保育実習指導Ⅰ	相談援助実習指導Ⅲ 社会福祉実習 介護総合演習Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅱ-2 保育実践演習 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ	
社会福祉展開科目	・福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を進めることができる。 ・社会問題の解決や支援の現状について実践的・総合的にとらえ、専門職の社会的役割を踏まえた意見を表明できるよう専門性を深める学修をする。 ・時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を養うことができる。	福祉と食 介護基礎 手話 多職種連携論		行政福祉論 医療ソーシャルワーク論	
演習	・自己の社会福祉への課題に関心を持ち、その解決へ向けた方法の提案や行動ができる高い専門性と倫理観を養うことができる。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述し、発表することができる。		人間福祉基礎演習	人間福祉演習	
卒業研究					卒業研究

DP

人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．人間の尊厳と基本的人権を尊重し、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的にとらえる態度を備える
2．福祉や健康に関しての知識を広く持ち、地域共生社会の実現の重要性を理解し、人と関わる役割を担う能力を有する
3．現代における福祉や健康の問題に広く関心を持ち、個人や地域社会の生活課題の解決に取り組む専門性を有する
そのうえで、次の資質および能力を有している者に「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

CP

人間福祉学科では、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ケアワーク科目」「保育科目」「ソーシャルワーク科目」、さらに学外での実習をともなう「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」を設ける。

Ⅱ-5 教育人文学部　幼児教育学科（EA）

〈専門科目教育課程〉[2023年度生]

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	64単位	90単位以上
	選択	26単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から、必修科目64単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124 単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目26単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目30単位取得した場合は、4 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	基礎	児童学概論	2		講義	○								○	
		児童学演習	2		演習		○							×	
		児童学研究法	2		講義						○			×	
		ネイチャー・ワーク	2		演習			○						×	
		幼児教育基礎実習	2		実習				○					×	
		幼児教育基礎演習	2		演習				○					×	
	保育と教育	保育者論	2		講義				○					×	
		幼児教育学	2		講義	○								×	
		教育学	2		講義		○							×	
		保育制度・保育政策論	2		講義				○					×	
		特別支援教育概論	2		講義				○					×	
		障碍児保育		△2	演習					○				×	
		保育・教育課程論		※△2	講義					○				×	
		子どもの理解と援助	2		演習			○						×	
		教育方法	2		講義			○						×	
		乳児保育Ⅰ		△2	講義				○					×	
		乳児保育Ⅱ		△2	演習					○				×	
		多文化保育論		□2	講義						○		○	×	
		保育学		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
		保育臨床学		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
		保育実践論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可

[単位数欄の記号について]

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

註：△印の科目は、保育士資格の必修科目

註：□印の科目は、保育士資格の選択必修科目

[幼児教育学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	保育内容の理解と方法	子どもの生活と遊び	2		演習			○						×	
		人間理解と人間関係	2		演習				○					×	
		子どもと自然	2		演習				○					×	
		言語文化表現	2		演習		○							×	
		表現総論	2		講義			○						×	
		保育内容総論		※△2	演習						○			×	
		保育内容の指導法（健康）		※△2	演習				○					×	
		保育内容の指導法（環境）		※△2	演習				○					×	
		保育内容の指導法（人間関係）		※△2	演習					○				×	
		保育内容の指導法（言葉）		※△2	演習					○				×	
		保育内容の指導法（音楽表現）		※△2	演習					○				×	
		保育内容の指導法（造形表現）		※△2	演習				○					×	
		保育内容の指導法（身体表現）		※△2	演習					○				×	
	発達と臨床	保育・教育心理学	2		講義	○								×	
		生涯発達心理学	2		講義		○							×	
		保育・教育相談		※□2	演習						○			×	
		青年心理学		□2	講義			○		○				×	
		乳幼児発達論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
		発達臨床論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
	生活と福祉	子ども家庭福祉Ⅰ	2		講義	○								×	
		子ども家庭福祉Ⅱ		□2	演習						○			×	
		社会福祉	2		講義		○							×	
		子ども家庭支援論	2		講義			○						×	
		社会的養護Ⅰ		△2	講義			○						×	
		社会的養護Ⅱ		△2	演習				○					×	
		子育て支援		△2	演習				○					×	
		児童養護論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
	健康と運動	児童保健学	2		講義		○							×	
		子どもの健康と安全	2		演習			○						×	
		食と発達		△2	演習			○						×	
		子どもと運動	2		演習			○						×	
		幼児運動論		2	演習						○		○	×	
		児童保健学各論		2	講義					○		○		×	

[単位数欄の記号について]

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

註：△印の科目は、保育士資格の必修科目

註：□印の科目は、保育士資格の選択必修科目

[幼児教育学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	表現と文化	子どもと歌唱表現	2		演習			○						×	
		音楽表現基礎技能		□2	演習		○							×	
		感じて表現（造形）	2		演習	○								×	
		考えて表現（造形）	2		演習		○							×	
		子どもと身体表現	2		演習				○					×	
		音楽表現応用		□1	演習			○	○	○	○			×	繰り返し受講可
		造形発達と表現		2	講義				○		○		○	○	
		幼児音楽論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
		造形保育論		2	講義					○	○	○	○	×	繰り返し受講可
		身体表現論		2	講義						○		○	×	
	フィールドワーク（実習）	幼稚園教育実習総論		※2	演習						○			×	
		幼稚園教育実習		※4	実習								○	×	
		保育実習総論Ⅰ		△2	演習					○				×	
		保育実習Ⅰ(保育所)		△2	実習					○			○	×	
		保育実習Ⅰ(施設)		△2	実習					○			○	×	
		保育実習総論Ⅱ		□1	演習							○		×	★ 保育士資格取得希望者は、★印の2科目3単位又は、☆印の2科目3単位以上を履修すること
		保育実習Ⅱ		□2	実習					○			○	×	★
		保育実習総論Ⅲ		□1	演習							○		×	☆
		保育実習Ⅲ		□2	実習					○			○	×	☆
		保育インターンシップ		□2	実習					○			○	×	
	総合	保育・教職実践演習		※△2	演習								○	×	
		卒業研究	4		演習								○	×	

[単位数欄の記号について]

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

註：△印の科目は、保育士資格の必修科目

註：□印の科目は、保育士資格の選択必修科目

[「卒業研究」の履修について]

註１：「卒業研究」を履修するには、原則として、３年次終了時に修得単位数が80単位以上であること。

[資格の履修について]

註１：幼稚園教諭一種免許状取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある※印の科目を全て履修しなければならない。

註２：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある△印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある□印から９単位以上を選択して履修すること。そのうち、「保育実習総論Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」又は「保育実習総論Ⅲ」と「保育実習Ⅲ」のどちらか３単位以上履修しなければならない。

註３：フィールドワーク（実習）科目については、幼児教育学科が作成した「実習の手引き」記載事項をふまえて履修すること。

註４：社会福祉主事任用資格取得希望者は、以下の科目を履修する必要がある。
「教育学」「保育学」「社会福祉」

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身に付けるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

幼児教育学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎	・幅広く子どもと保育にかかわる課題について関心をもつ。 ・子どもと保育の実態を実習を通して理解し、自らの子ども理解を深める。 ・さまざまな感覚を相互的に発揮させ、乳幼児の感性に共鳴できる基盤を身に付ける。 ・子どもと保育・教育にかかわる研究理論と手法について学習し、卒業研究等に取り組むための基礎力を獲得する。	児童学概論 児童学演習	ネイチャー・ワーク 幼児教育基礎実習 幼児教育基礎演習	児童学研究法	
保育と教育	・保育及び教育に関する基本的な知識を持ち、事例検討、保育観察を通して、保育者に必要な資質を習得する。 ・特別な配慮を必要とする子どもと家庭の保育に関する基礎的な知識を獲得するとともに、実践を通して子どもの指導や援助に関する力量を身に付ける。 ・乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身に付ける。 ・子ども理解の基礎的知識や態度を学習し、子ども理解の具体的な方法を習得する。 ・保育を計画し、指導方法を子どもの実態を踏まえて選択し、実践するための知識と技能を習得する。さらに、自らの実践を通して評価する力を身に付ける。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。	幼児教育学 教育学	保育者論 保育制度・保育政策論 特別支援教育概論 子どもの理解と援助 教育方法 乳児保育Ⅰ	障碍児保育 保育・教育課程論 乳児保育Ⅱ 多文化保育論 保育学 保育臨床学 保育実践論	
保育内容の理解と方法	・保育内容に関する専門的知識を習得し、実際の指導に生かす力を身に付ける。 ・保育内容に適した指導方法について5領域のねらいや内容を理解し、活用する力を身に付ける。 ・保育内容の5領域を総合的に捉え、具体的な援助を構想することができる。	言語文化表現	子どもの生活と遊び 人間理解と人間関係 子どもと自然 表現総論 保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（造形表現）	保育内容総論 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（音楽表現） 保育内容の指導法（身体表現）	
発達と臨床	・子どもの発達に関する基礎的知識を習得し、子どもの理解に生かす力を養う。 ・生涯発達に関する心理学的な知識を習得し、親子・家族関係や子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や子どもの精神的健康と課題に取り組む。 ・子どもと保護者に関する心理的支援に関心を持ち、事例検討を踏まえてカウンセリングマインドの必要性を認識する。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。	保育・教育心理学 生涯発達心理学	青年心理学	保育・教育相談 乳幼児発達論 発達臨床論	
生活と福祉	・子どもとその家庭の現状と変遷に関する基礎的知識を身に付け、子どもと家族にかかわる課題について考える力を身に付ける。 ・保護者に対する子育ての支援について事例を通して考察し、保育者の職務や資質・技能を習得する。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。	子ども家庭福祉Ⅰ 社会福祉	子ども家庭支援論 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 子育て支援	子ども家庭福祉Ⅱ 児童養護論	
健康と運動	・子どもの健康と安全に関する基礎的知識と技能を習得し、保育場面で必要な援助を選択して実行することができる。 ・子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を習得し、今日的課題に取り組む。 ・子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を習得する。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。	児童保健学	子どもの健康と安全 食と発達 子どもと運動	幼児運動論 児童保健学各論	
表現と文化	・音楽表現、造形表現、身体表現に関わる専門的知識・技能を習得し、自ら表現する力や子どもの表現を受け止め、育む保育者としての感性を磨く。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、問題意識を持って発展的学習に取り組む。	音楽表現基礎技能 感じて表現（造形） 考えて表現（造形）	子どもと歌唱表現 子どもと身体表現 音楽表現応用 造形発達と表現	幼児音楽論 造形保育論 身体表現論	
フィールドワーク（実習）	・幼稚園・保育所・認定こども園の保育者の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を習得する。 ・児童福祉施設（保育所以外）の保育士の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を習得する。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む。			幼稚園教育実習総論 保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育インターンシップ 保育実習総論Ⅰ	幼稚園教育実習 保育実習総論Ⅱ 保育実習総論Ⅲ
総合	・4年間の学習を振り返ることで自らの保育者となる上で必要な資質を確認することができる。 ・めざす保育者像を明確に形成するとともに、自らの課題解決と更なる知識・技能の習得に努めることができる。 ・子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む。				保育・教職実践演習 卒業研究

DP

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする
1．子どもの心理や発達特性および保育・教育を構成する主要な理論を理解し、それに応じた保育を構築し、実践することができる
2．子どもの表現を読みとる豊かな感性をもち、子どもと響きあえる表現力を身に付ける
3．子どもと保育・教育にかかわる課題を設定し、自ら探究する意欲とその基礎となる知識・技能をもつ

CP

幼児教育学科では、保育者養成を基盤とし、広く人間理解力と関係発展力に富み、創造力を備えた人材を養うカリキュラムを編成する。
1．学びの基礎となる「基礎」領域では、育つものとしての子どもに対する知識・技能を習得し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を学ぶ
2．「保育と教育」「保育内容の理解と方法」「発達と臨床」「生活と福祉」「健康と運動」の5つの領域では、各領域の専門的な知識と技能の習得を図り、質の高い保育・教育を構想すると共に、全人的な人間理解をめざす
3．「表現と文化」領域では、子どもの豊かな表現をはぐくむことをめざし、学習者自身の感性豊かな表現力を高める
4．実習関連科目である「フィールドワーク（実習）」領域では、これまでの学びを統合し、子どもの主体性と自発性を尊重しつつ、保育・教育を構築していく実践力を育成する

Ⅱ-6 教育人文学部　児童教育学科（EB）

〈専門科目教育課程〉［2023年度生］

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	59単位	90単位以上
	選択	31単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から、必修科目59単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目31単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目40単位取得した場合は、9 単位分が自由選択科目の単位となる

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	初等教育教員養成分野	教科及び教科の指導法に関する科目	国語	2		講義	○								○	
			社会	2		講義		○							○	
			算数	2		講義		○							○	
			理科	2		講義		○							○	
			生活		2	講義	○								○	
			音楽		2	講義				○					○	
			図画工作		2	講義		○							○	
			家庭		2	講義			○						○	
			体育	2		講義				○					○	
			外国語（英語）		2	講義				○					○	
			初等国語科教育	2		講義			○						○	
			初等算数科教育	2		講義				○					○	
			初等理科教育	2		講義				○					○	
			初等体育科教育	2		講義					○				○	
			初等音楽科教育	2		講義						○			○	
			初等図画工作科教育	2		講義				○					○	
			初等社会科教育	2		講義			○						○	
			初等生活科教育	2		講義			○						○	
			初等家庭科教育	2		講義					○				○	
			初等英語科教育	2		講義					○				○	
			教材研究Ａ		1	演習			○						○	
			教材研究Ｂ		1	演習				○					○	
			授業研究Ａ		1	演習					○				○	繰り返し受講可
			授業研究Ｂ		1	演習						○			○	繰り返し受講可
		教育の基礎的理解に関する科目	教育学概論Ａ	2		講義	○								○	
			教職入門Ａ	2		講義	○								○	
			学校制度論Ａ	2		講義	○								○	
			教育心理学Ａ	2		講義		○							○	
			特別な教育的ニーズの理解と支援Ａ	2		講義	○								○	
			教育課程論Ａ	2		講義		○							○	

[児童教育学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	初等教育教員養成分野	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育A	2		講義					○				○	
			総合的な学習の時間の授業づくりA		■2	講義						○			○	
			特別活動A	2		講義				○					○	
			教育方法A（ICT活用を含む）	2		講義			○						○	
			生徒指導・進路指導A	2		講義			○						○	
			教育相談A	2		講義						○			○	
			幼児理解の理論と方法		●2	講義				○					○	
	特別支援教育分野	特別支援教育に関する科目	特別支援学校教育概論		★2	講義	○								○	
			知的障害教育概論		★2	講義			○						○	
			肢体不自由教育概論		★2	講義			○						○	
			病弱教育概論		★2	講義				○					○	
			視覚障害教育概論		★2	講義						○			○	
			聴覚障害教育概論		★2	講義						○			○	
			重複障害教育概論		★2	講義						○			○	
			特別支援教育指導法	1		演習			○						○	
			知的障害教育課程論		★2	講義				○					○	
			肢体不自由教育課程論		★2	講義					○				○	
			病弱教育課程論		★2	講義					○				○	
			知的障害の心理・生理・病理		★2	講義		○							○	
			肢体不自由の心理・生理・病理		★2	講義	○								○	
			病弱の心理・生理・病理		★2	講義	○								○	
	学校実地研究分野	教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導		■2	演習						○			×	介護等体験を含む
			教育実習		■4	実習							○		×	
			教職実践演習（幼・小・中・高）		■2	演習								○	×	
			幼稚園教育実習（事前事後指導含む）		●2	実習						○			×	
			特別支援学校教育実習（事前事後指導含む）		★3	実習							○		×	
			教育実習Ⅰ		◆1	演習							○		×	
			教育実習Ⅱ		2	実習							○		×	中免のみ取得の場合は必修
			教育実習Ⅲ		◆2	実習							○		×	
	学校教員実力養成分野	大学が独自に設定する科目	表現活動（基礎）		1	演習	○								○	
			表現活動（応用）		1	演習		○							○	
			教職基礎演習		1	演習		○							○	
			教職発展演習		2	演習				○					○	
			教職応用演習		1	演習							○		○	
			学習指導と学校図書館		2	講義			○						○	
			学級経営と道徳教育		2	講義						○			○	
			外国語活動		2	講義						○			○	
			書写・文章表現演習（基礎）		1	演習		○							○	
			書写・文章表現演習（応用）		1	演習				○					○	
			理科実験観察		1	実験・実習					○				○	
			教育行政概論		2	講義						○			○	
			ICTとプログラミング教育		2	演習					○				○	
			ピアノ奏法演習		1	演習	○	○							×	

[資格の履修について]

註１：小学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印の科目を全て履修しなければならない。

註２：特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と★印の科目を全て履修しなければならない。

註３：幼稚園教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と●印の科目を全て履修しなければならない。

註４：中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と◆印の科目を全て履修しなければならない。

[児童教育学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	幼稚園教員養成分野	領域・保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む。）	幼児と健康		●2	講義	○		○						○	
			幼児と人間関係		●2	講義	○		○						○	
			幼児と環境		●2	講義	○		○						○	
			幼児と言葉		●2	講義		○		○					○	
			幼児と表現		●2	講義		○		○					○	
			保育内容総論		●2	演習		○							○	
			保育内容の指導法（環境）		●2	演習			○		○				○	
			保育内容の指導法（人間関係）		●2	演習			○		○				○	
			保育内容の指導法（言葉）		●2	演習			○		○				○	
			保育内容の指導法（健康）		●2	演習				○		○			○	
			保育内容の指導法（表現）		●2	演習					○				○	
	中等教育教員養成（外国語）分野	英語コミュニケーションに関する科目	英語Ⅲ		◆2	演習			○		○		○		○	
			英語Ⅳ		◆2	演習				○		○		○	○	
			アドバンスト・リスニング応用		◆2	講義		○		○		○		○	○	
			アドバンスト・リーディング応用		◆2	講義	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			アドバンスト・ライティング応用		◆2	講義			○	○	○	○	○	○	○	
			中級ビジネス英語		2	講義				○		○		○	○	
			中級映画・ドラマ英語		2	講義			○	○	○	○	○	○	○	
			中級インターネット英語		2	講義				○		○		○	○	
			中級メディア英語		2	講義			○		○		○		○	
			Oral English Ⅰa		◆1	演習			○		○		○		○	
			Oral English Ⅰb		◆1	演習				○		○		○	○	
			Oral English Ⅱa		1	演習					○		○		○	
			Oral English Ⅱb		1	演習						○		○	○	
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	英語科教育法Ⅰ		◆2	講義			○						○	
			英語科教育法Ⅱ		◆2	講義				○					○	
			英語科教育法Ⅲ		2	講義					○				○	中免のみ必修
			英語科教育法Ⅳ		2	講義						○			○	中免のみ必修
		英語学に関する科目	ことばのしくみ		◆2	講義	○		○		○				○	
			英語学		◆2	講義		○		○		○			○	
			英語音声学Ⅰ(子音と母音)		◆2	講義	○		○		○				○	
			英語音声学Ⅱ（発話実践）		◆2	講義		○		○		○			○	
			ことばへの気づきワークショップ		◆2	演習		○		○		○			○	
	中等教育教員養成（外国語）分野	英語文学に関する科目	英米文学の流れ		◆2	講義	○		○		○				○	
			英米小説と女性		◆2	講義		○		○		○			○	
		異文化理解に関する科目	異文化コミュニケーション		◆2	講義		○		○		○			○	
			比較文化論		◆2	講義			○		○		○		○	
	演習		卒業研究ゼミナール	2		演習					○				×	
			卒業研究	4		演習							○		×	

[「卒業研究」の履修について]

註１：「卒業研究」を履修するには、原則として、３年次終了時に修得単位数が84単位以上であること。

[資格の履修について]

註１：小学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印の科目を全て履修しなければならない。

註２：特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と★印の科目を全て履修しなければならない。

註３：幼稚園教諭一種免許状取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と●印の科目を全て履修しなければならない。

註４：中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）取得を希望する者は必修に加えて、単位数欄にある■印と◆印の科目を全て履修しなければならない。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

児童教育学科　カリキュラムマップ

□ → 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
初等教育教員養成分野	小学校教員養成の基盤となる各教科・領域、その指導法について、 ・教科用図書の内容を十分理解し、わかりやすく学習内容や学習活動を組み立てるとともに、子どもの質問に的確にこたえることができる。 ・板書や発問、的確な話し方など基本的な指導技術を身につけるとともに、子どもの反応を生かしながら、集中力を保ち、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。 ・自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを生かした学習指導案を作成することができる。 ・誠実、公平かつ責任感をもって子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識をもって指導にあたることができる。 ・他者の意見やアドバイスに耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの役割・職務を遂行することできる。 ・教員の使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢をもつことができる。	国語 算数 社会 生活 理科 図画工作 教育学概論A 教職入門A 学校制度論A 教育心理学A 特別な教育的ニーズの理解と支援A 教育課程論A	音楽 体育 家庭 外国語（英語） 初等国語科教育 初等算数科教育 初等理科教育 初等図画工作科教育 初等社会科教育 初等生活科教育 教材研究A 教材研究B 特別活動A 教育方法A（ICT活用を含む） 生徒指導・進路指導A 幼児理解の理論と方法	初等体育科教育 初等音楽科教育 初等家庭科教育 初等英語科教育 授業研究A 授業研究B 道徳教育A 総合的な学習の時間の授業づくりA 教育相談A	
特別支援教育分野	・特別支援教育についての高い専門性を有する小学校教員または特別支援学校教員としての知識、問題解決能力を身につけることができる。 ・今日の課題である「インクルーシブ教育の実現」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる。	特別支援学校教育概論 病弱の心理・生理・病理 知的障害の心理・生理・病理 肢体不自由の心理・生理・病理	知的障害教育概論 肢体不自由教育概論 病弱教育概論 特別支援教育指導法 知的障害教育課程論	視覚障害教育概論 聴覚障害教育概論 重複障害教育概論 肢体不自由教育課程論 病弱教育課程論	
学校実地研究分野	・学んだことを実際の教育現場において、実践することで、自らの課題を発見し、解決する能力を身につけることができる。			教育実習事前事後指導 幼稚園教育実習（事前事後指導含む）	教育実習 教職実践演習（幼・小・中・高） 特別支援学校教育実習（事前事後指導含む） 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ
学校教員実力養成分野	・多様な表現活動や演習を通じて、学校運営、学級運営、効果的な指導法や学習指導案を作成することができる。 ・組織の一員として協調性や柔軟性をもって校務にあたることができる。	表現活動（基礎） 表現活動（応用） 教職基礎演習 ピアノ奏法演習 書写・文章表現演習（基礎）	教職発展演習 学習指導と学校図書館 書写・文章表現演習（応用）	理科実験観察 ICTとプログラミング教育 学級経営と道徳教育 外国語活動 教育行政概論	教職応用演習
幼稚園教員養成分野	・幼稚園と小学校の連携・接続を推進できる小学校教員または幼稚園教員としての知識、問題解決能力を身につけることができる。 ・今日の課題である「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる。	幼児と健康 幼児と人間関係 幼児と環境 幼児と言葉 幼児と表現 保育内容総論	保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康）	保育内容の指導法（表現）	
中等教育教員養成（外国語）分野	・小学校と中学校の連携を図った英語教育を推進できる中学校（高等学校）教員としての知識、問題解決能力を身につけることができる。 ・今日の課題である「グローバル化に対応した教育環境の整備」に向けた知識・技術、実践的指導力を身につけることができる。	アドバンスト・リスニング応用 アドバンスト・リーディング応用 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ ことばのしくみ 英語学 英語音声学Ⅰ（子音と母音） 英語音声学Ⅱ（発話実践） ことばへの気づきワークショップ 英米文学の流れ 英米小説と女性 異文化コミュニケーション	英語Ⅲ 英語Ⅳ アドバンスト・ライティング応用 中級ビジネス英語 中級映画・ドラマ英語 中級インターネット英語 中級メディア英語 Oral English Ⅰa Oral English Ⅰb 比較文化論	Oral English Ⅱa Oral English Ⅱb 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	
演習	・教育学や教育理論に関する学修を深め、自己の学修課題に沿って、研究を深めることができる、かつ学び続けることできる。 ・仲間との共同学修を通して、自己の学修課題を省察したり、他者へ建設的なアドバイスができる。 ・自己の研究課題を設定するための資料を収集し、自己研究課題が設定できるようになる。			卒業研究ゼミナール	卒業研究

DP

児童教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．自律的に学ぶ姿勢や、時代の変化やキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていく態度を身につけている
2．「チーム学校」の実現に向けて、多様な人と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む能力を身につけている
3．特別支援教育・幼児教育・英語教育等への学びを究め、幼小及び小中の円滑な接続等に関する知識と技能を身につけている
4．学校教育の今日的な諸課題を解決する能力を身につけている

CP

児童教育学科では、教員として必要な資質や能力を養うために、講義・演習、実技、学校インターンシップ、教育実習等を通して、教育学や教育理論と教育実践との往還的な学習を深めるようカリキュラムを編成する。

Ⅱ-7 教育人文学部　心理学科（EC）

〈専門科目教育課程〉［2023年度生］

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位以上	
学科専門科目	必修	46単位	90単位以上
	選択	44単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から、必修科目46単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目44単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目50単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	心理基盤科目	生涯発達科目	心理学概論	※2		講義	○								×	
			発達心理学概論（発達心理学）	※2		講義	○								×	
			乳幼児期の心理学	2		講義			○						×	
			児童期の心理学	2		講義			○						×	
			青年期の心理学	2		講義			○						×	
			中高年期の心理学	2		講義					○				×	
			心理学基礎論		2	講義			○		○		○		×	
		心理臨床科目	臨床心理学概論	※2		講義	○								×	
			発達臨床心理学（発達心理学）	※2		講義				○					×	
			カウンセリング理論	2		講義		○							×	
			乳幼児期の心理臨床		2	講義				○		○			×	
			児童期から青年期の心理臨床		2	講義				○		○			○	
			中高年期の心理臨床		2	講義						○		○	×	
			障害者・障害児心理学		※2	講義					○		○		×	
			心理療法		2	講義					○		○		×	
			発達臨床フィールドワーク		2	演習						○		○	×	
		研究法・実習科目	心理学入門演習	2		演習			○						×	
			人間発達演習	2		演習						○			×	
			発達心理学外書講読		2	講義					○		○		○	
			心理学研究法	※2		講義					○				×	
			心理学統計法	※2		講義	○								×	
			心理学情報処理法	2		演習		○							×	
			心理学実験	※2		演習		○							×	
			心理アセスメント入門	2		演習			○						×	
			データ解析法		2	演習					○	○			×	
			心理学実験演習		2	演習			○		○				×	繰り返し受講可

［単位数欄の記号について］

註：※印の科目は、公認心理師資格取得の必須科目

[心理学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	心理基盤科目	研究法・実習科目	調査法		2	演習				○	○				×	2科目4単位以上を履修すること
			面接法		2	演習				○	○				×	
			観察法		2	演習				○	○				×	
			心理検査法		2	演習				○	○				×	
			実験計画法		2	演習				○	○				×	
			心理検査法応用		2	演習						○			×	
			カウンセリング技法		2	演習				○					×	
			学校カウンセリング		2	演習						○		○	×	
			発達支援活動		2	実習			○	○	○	○	○	○	×	繰り返し受講可
	領域別科目	社会科目	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	※2		講義		○							×	
			コミュニケーションの心理学		2	講義	○		○		○				○	
			対人関係の心理学		2	講義			○		○		○		○	
			グループダイナミクス		2	講義			○		○				○	
			家族心理学（社会・集団・家族心理学）		※2	講義			○		○				×	
			産業心理学（産業・組織心理学）		※2	講義				○		○			×	
			司法・犯罪心理学		※2	講義			○		○				×	
			職場のメンタルヘルス（産業・組織心理学）		※2	講義					○		○		×	
			社会行動の心理学		2	講義					○	○	○	○	○	繰り返し受講可
			キャリア発達心理学		2	講義						○		○	×	
		生活科目	感情・人格心理学		※2	講義		○		○		○			×	
			心理学リテラシー		2	講義	○		○						×	
			子どもの発達と環境		2	講義		○		○		○			×	
			知覚・認知心理学		※2	講義				○		○		○	×	
			身体運動の心理学		2	講義			○		○		○		×	
			見る・聴く・触れるの科学		2	講義			○		○		○		○	
			恋愛と結婚の科学		2	講義					○		○		×	
			健康・医療心理学		※2	講義						○		○	×	
			神経・生理心理学		※2	講義					○		○		×	
			文化と心理学		2	講義						○		○	○	
			臨床現場の心理学		2	講義						○		○	×	
		教育科目	教育心理学		2	講義		○		○					×	
			学習・言語心理学		※2	講義			○		○				×	
			生徒指導		2	講義					○		○		×	
			教育相談（教育・学校心理学）		※2	講義					○		○		×	
			学校保健Ⅰ	2		講義	○		○						×	
			学校保健Ⅱ		2	講義		○							×	
			養護概説		2	講義			○		○				×	
			養護教諭実践論		2	講義						○		○	×	
			健康相談活動		2	講義					○		○		×	
			福祉心理学		※2	講義			○		○				○	

[単位数欄の記号について]

註：※印の科目は、公認心理師資格取得の必須科目

[心理学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	領域別科目	保健科目	栄養学	2		講義	○								×	
			免疫学		2	講義	○		○						×	
			人体の構造と機能及び疾病	※2		講義		○							×	
			衛生学		2	講義		○		○		○			×	
			公衆衛生学		2	講義			○		○				×	
			解剖生理学特論		2	講義			○		○				×	
			子どもの生活と保健		2	講義			○		○				×	
			リハビリテーション論		2	講義			○		○				○	
			精神保健	2		講義			○		○				×	
			看護学概論		2	講義			○		○		○		×	
			看護援助方法		2	講義				○		○		○	×	
			救急処置活動		2	講義				○		○		○	×	
			家庭の応急手当		2	講義				○		○		○	×	
			小児保健看護学		2	講義					○		○		×	
			臨床看護実習		2	演習						○		○	×	
		公認心理師関連科目	関係行政論		※2	講義			○		○				×	
			公認心理師の職責		※2	講義		○							×	
			精神疾患とその治療		※2	講義				○		○			×	
			心理的アセスメント		※2	演習						○		○	×	
			心理学的支援法		※2	演習						○		○	×	
			心理演習		※2	演習							○		×	
			心理実習		※2	実習							○		×	
	卒業研究		卒業研究	4		演習							○		×	

[単位数欄の記号について]

註：※印の科目は、公認心理師資格取得の必須科目

[専門科目の履修について]

註１：選択必修科目として指定されている科目について、規定の単位数を超えて履修した単位は、選択科目に含めることができる。

[「卒業研究」の履修について]

註１：原則として、「卒業研究」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①３年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち84単位以上であること。

②次の４科目を修得していること。

「心理学概論」「臨床心理学概論」「発達心理学概論（発達心理学）」「人間発達演習」

註２：原則として、「人間発達演習」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①３年次前期までの修得単位数が卒業要件科目のうち60単位以上であること。

②「心理学実験」を修得していること。

③３年次前期までに、研究法・実習科目である「実験計画法」「調査法」「心理検査法」「観察法」「面接法」のうち、少なくとも１科目（2単位）を修得していること。

[資格の履修について]

註１：社会福祉主事任用資格の取得希望者は、以下の科目のうち３科目を履修する必要がある。

「心理学概論」「栄養学」「公衆衛生学」「リハビリテーション論」「精神保健」「看護学概論」

註２：「心理的アセスメント」「心理学的支援法」を履修するためには、３年前期までの公認心理師資格取得に必須の科目計22科目のうち、18科目の単位を修得している必要がある。

註３：「心理実習」を履修するためには、「心理的アセスメント」「心理学的支援法」の単位を修得している必要がある。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。
カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

心理学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
生涯発達科目	・心理学の主な領域における基本的な理論や概念、実証的・科学的な考え方について理解することができる。 ・人の生涯にわたる発達の過程と要因に関する基礎的な理論を理解し、各発達段階における専門的な知識を習得することができる。 ・生涯発達に関する心理学的な知見に興味をもち、自ら調べ考えようとする態度を養うことができる。	心理学概論 発達心理学概論（発達心理学）	乳幼児期の心理学 児童期の心理学 青年期の心理学 心理学基礎論	中高年期の心理学	
心理臨床科目	・心理臨床における基本的な理論や概念を学び、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を育成することができる。 ・心理臨床における知識や技能を修得し、生涯発達の視点をもちつつ、自らおよび周囲の人々の心の健康を保持するために、生活の中で活用する方法を理解することができる。 ・心理臨床の各領域における知識・技能を用いて、日常生活における課題の解決に臨む意欲を養うことができる。	臨床心理学概論 カウンセリング理論	発達臨床心理学（発達心理学） 乳幼児期の心理臨床 児童期から青年期の心理臨床	中高年期の心理臨床 障害者・障害児心理学 心理療法 発達臨床フィールドワーク	
研究法・実習科目	・人間の心と行動に対する経験則的な理解と、実証的・科学的な考え方の違いについて理解し、適切な研究方法を自ら考える力を養うことができる。 ・心理学的な研究法から得られた実証的なデータについて、コンピュータを活用した統計的な解析をもとに、客観的・科学的な判断を考えることができる。 ・心理学的な興味に基づいて実施された実験・調査・面接・観察・検査等で得られたデータを分析し、自ら導いた考察や結論を、客観的かつ論理的に表現する力を育成することができる。	心理学統計法 心理学情報処理法 心理学実験	心理学入門演習 心理アセスメント入門 心理学実験演習 調査法 面接法 観察法 心理検査法 実験計画法 カウンセリング技法 発達支援活動	人間発達演習 発達心理学外書講読 心理学研究法 データ解析法 心理検査法応用 学校カウンセリング	
社会科目	・人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭、家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念について学び、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を養うことができる。 ・社会における経験が心理学的手法を用いてどのように説明されるのかを学び、人間の心と行動に対する経験則的な理解と、実証的・科学的な考え方の違いを判断する力を身につけることができる。 ・人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念を用いて、日常生活での経験を分析し、実際にそれらを活用する方法を自ら考える力を育成することができる。	社会心理学概論 （社会・集団・家族心理学） コミュニケーションの心理学	対人関係の心理学 グループダイナミクス 家族心理学（社会・集団・家族心理学） 産業心理学（産業・組織心理学） 司法・犯罪心理学	職場のメンタルヘルス（産業・組織心理学） 社会行動の心理学 キャリア発達心理学	
生活科目	・日常生活における経験が心理学ではどのように研究されているのかを学び、心理学の理論、概念・技能を人間生活で活用していく方法について考える力を養うことができる。 ・心理学の様々な研究領域に触れる中で、興味関心を持った事柄について自ら調べ考えようとする姿勢を養い、心理学の基礎的な知識や技能に基づいた考察や結論を導く力を養うことができる。 ・制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における環境を発見・分析し、自らおよび周囲の人々の心や体の健康を保持増進させようとする姿勢を養うことができる。	感情・人格心理学 心理学リテラシー 子どもの発達と環境	知覚・認知心理学 身体運動の心理学 見る・聴く・触れるの科学	恋愛と結婚の科学 健康・医療心理学 神経・生理心理学 文化と心理学 臨床現場の心理学	
教育科目	・社会的な視野および生涯発達という視点から、教育現場における課題を見出すことができる。 ・学校教育における学習活動・保健活動および指導に関して、教育を中心とした諸領域の専門的知識と基本的な技能を身につけることができる。 ・社会的な視野および生涯発達という視点から、教育現場における課題を見出す姿勢とともに、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を用いて、その解決に臨む意欲を養うことができる。	教育心理学 学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ	学習・言語心理学 養護概説 福祉心理学	生徒指導 教育相談（教育・学校心理学） 養護教諭実践論 健康相談活動	
保健科目	・心と身体の健康に関して、保健を中心とした諸領域の専門的知識と基本的な技能を学ぶことができる。 ・自己および周囲の人々の心と身体の健康を保持増進のために、専門的知識や技能を活用する方法を自ら考え行動する力を育成することができる。 ・養護活動における課題を見出し、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を用いて、その解決に必要な実践的能力を養うことができる。	栄養学 免疫学 人体の構造と機能及び疾病 衛生学	公衆衛生学 解剖生理学特論 子どもの生活と保健 リハビリテーション論 精神保健 看護学概論 看護援助方法 救急処置活動 家庭の応急手当	小児保健看護学 臨床看護実習	
公認心理師関連科目	・公認心理師としての職責を理解し、心理学的支援に関する専門的な知識と技能を学ぶことができる。 ・具体的な体験や支援活動を通して、心理に関する専門的知識及び技能と支援を行う関係者の役割分担を概念化・理論化し、体系だてることができる。 ・社会の変化に伴う心理学的課題を自ら発見し、専門職として生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲および態度を身につけることができる。	公認心理師の職責	関係行政論 精神疾患とその治療	心理的アセスメント 心理学的支援法	心理演習 心理実習
卒業研究	・心理学における実証的な研究方法の進め方を理解し、自ら見出したテーマに沿って研究を行うことができる。 ・データの分析から得られた資料に基づいて、自ら導いた考察や結論を、客観的かつ論理的に表現することができる。 ・社会的な視野・および生涯発達という視点から、心理学的な知見を人間生活に対して還元しようとする姿勢を養うことができる。				卒業研究

DP

心理学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。
1．心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間、及び人間の発達に対する多面的な見方ができる。
2．心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解や対人コミュニケーション能力を身につける。
3．専門教育で習得した理論・概念・知識・技能により、生活支援能力や身体のケア能力を身につける。

CP

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身に付けさせるため、教育課程として8領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。
1．「生涯発達科目」では、心理学の基本的な理論や概念、実証的・科学的な考え方に基づき、多面的かつ複合的に人間の発達過程に対する理解を深める。
2．「心理臨床科目」では、心理臨床における知識や理論を学び、事例学習や実習を通して個々の発達段階における危機的課題への支援・援助に関する専門的知識および技能を修得する。
3．「研究法・実習科目」では、人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を身につける。
4．「社会科目」では、社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）における人びとの行動特性を学び、心理学に基づいて、人間の心と行動を分析的に考える力を養う。学生自ら進路選択の可能性を広げられるようになることを視野に入れ、社会の中で心理学の専門的学びを活かせる姿勢を身につける。
5．「生活科目」では、制度や環境といった社会的な視野および生涯発達（誕生から死に至るまでの発達）という視点から、日常生活における課題を発見・分析し、自己および周囲の人々の心や体の健康を保持増進させようとする姿勢を養う。
6．「教育科目」では、学校教育における学習活動および保健活動に対する理解と指導について学び、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢および問題に対して柔軟に対応できる力を養う。
7．「保健科目」では、学校における児童・生徒の養護および保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢および問題に対して柔軟に対応できる力を養う。
8．「公認心理師関連科目」では、心理学的支援を必要とする人への専門的な相談・助言・指導等の支援方法を習得し、かつチーム支援や他職種・他機関との連携・共同について学ぶ。

Ⅱ-8 教育人文学部　文芸文化学科（ED）

〈専門科目教育課程〉［2023年度生］

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共通科目		22単位	
学科専門科目	必 修	29単位	90単位以上
	コース必修	10単位	
	コース選択必修	8 単位以上	
	選 択	43単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から「卒業研究」を含めた必修科目29単位、各自所属するコースの領域からコース必修 5 科目10単位、コース選択必修 4 科目 8 単位以上を含めた90単位以上を履修すること。
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の学科専門科目90単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の学科専門科目を96単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考	
専門科目	日本語科目		日本語基礎	2		講義	○								×		
			日本語表現Ⅰ	2		講義		○							×		
			日本語表現Ⅱ	2		講義				○					×		
			日本語表現Ⅲ	2		講義						○			×		
	ことばの科目	読む	朗読		1	演習	○		○		○				×		
			精読		1	演習	○		○		○				×		
			演劇表現		1	演習		○		○		○			×		
			読み聞かせ		1	演習		○		○		○			×		
		書く	文章創作		1	演習	○		○		○				×		
			ジャーナリズムの文章		1	演習		○		○		○			×		
			実用書道（硬筆）		1	演習	○		○		○				×		
			実用書道（毛筆）		1	演習	○		○		○				×		
		話す・聞く	くらしの中のことば		1	演習	○		○		○				×		
			手話表現		1	演習		○		○		○			×		
			表現技法		1	演習	○		○		○				×		
			ことばあそび		1	演習		○		○		○			×		
	ワークショップ科目	文化体験	多文化スタディーズ		2	演習		○		○		○			×		
			文化発信プロジェクト		2	演習			○		○		○		×		
			着物の文化		2	演習			○		○		○		×		
			書籍空間論		2	演習			○		○		○		○		司書課程選択科目
			和本の文化		2	演習				○		○		○	×		
		作品創作	小説研究		2	演習				○		○		○	×		
			エディター入門		2	演習				○		○		○	×		
			デジタルアート入門		2	演習				○		○		○	×		
			デザイン書道（硬筆）		1	演習				○		○		○	×		
			デザイン書道（毛筆）		1	演習				○		○		○	×		

[文芸文化学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考	
専門科目	日本語・日本文学科目	日本語学入門	2		講義	○								×		
		日本文学概論	2		講義			○						×		
		日本文学史A		■2	講義		○		○					○	日本語・日本文学コース必修科目	
		日本文学史B		■2	講義	○		○						○		
		日本文学史C		■2	講義		○		○					○		
		音声表現		■2	講義				○		○		○	○		
		漢詩・漢文に親しむ		■2	講義			○		○		○		○		
		日本語学A		□2	講義			○		○		○		○	日本語・日本文学コース選択必修科目 4科目8単位以上を履修すること	
		日本語学B		□2	講義			○		○		○		○		
		日本語学研究A		□2	講義				○		○		○	○		
		日本語学研究B		□2	講義				○		○		○	○		
		日本文学論A		□2	講義			○		○		○		○		
		日本文学論B		□2	講義			○		○		○		○		
		日本文学論C		□2	講義			○		○		○		○		
		日本文学研究A		□2	講義				○		○		○	○		
		日本文学研究B		□2	講義				○		○		○	○		
		日本文学研究C		□2	講義				○		○		○	○		
		言語学入門		2	講義		○		○					○		
		日本文学の名作		2	講義	○		○						○		
		編集文化論		2	講義			○		○		○		○		
		日本語音声学		2	講義				○		○		○	○		
		児童文学		2	講義			○		○		○		×		司書課程必修科目
		物語分析		2	講義				○		○		○	○		
	多文化理解・共生科目	多文化理解入門	2		講義	○								×		
		多文化理解概論	2		講義		○							×		
		日本と異文化		▲2	講義	○		○						○	多文化理解・共生コース必修科目	学芸員課程選択科目
		多文化社会とコミュニケーション		▲2	講義		○		○					○		
		多文化共生ワークショップ		▲2	講義	○		○		○				○		
		英語で学ぶ日本文化		▲2	講義			○		○		○		○		
		英語で伝える日本文化		▲2	講義				○		○		○	○		
		海外文学の名作		△2	講義		○		○					○	多文化理解・共生コース選択必修科目 4科目8単位以上を履修すること	
		国際文化論		△2	講義			○		○		○		○		
		比較文化論		△2	講義			○		○		○		○		
		比較文化研究		△2	講義				○		○		○	○		
		世界のファンタジー		△2	講義				○		○		○	○		
		多文化社会とユーモア		△2	講義				○		○		○	○		
		アニメ文化論		△2	講義			○		○		○		○		
		ディズニー研究		△2	講義				○		○		○	○		

[文芸文化学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目			単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考	
専門科目	芸術・文化科目	芸術文化概論	2		講義				○					×		学芸員課程選択科目
		日本文化特講	2		講義					○				×		
		生涯学習概論		●2	講義	○		○						○	芸術・文化コース必修科目	司書・学芸員課程必修科目
		日本美術史		●2	講義		○		○					○		学芸員課程選択科目
		西洋美術史		●2	講義	○		○						○		
		文化財研究		●2	講義				○		○		○	○		
		日本の民俗文化		●2	講義			○		○		○		○		
		文化を考える		○2	講義	○		○						○	芸術・文化コース選択必修科目 4科目8単位以上を履修すること	
		図書の文化		○2	講義			○		○		○		○		司書課程選択科目
		衣食住の文化		○2	講義				○		○		○	○		
		映像文化論		○2	講義				○		○		○	○		
		世界の演劇		○2	講義			○		○		○		○		
		芸術と歴史		○2	講義				○		○		○	○		
		テーマで触れる芸術		○2	講義			○		○		○		○		
		生活とデザイン		○2	講義				○		○		○	○		学芸員課程選択科目
		考える日本史		2	講義			○		○		○		○		
		神話・伝承学		2	講義			○		○		○		○		
		芸能の世界		2	講義			○		○		○		○		
		舞台芸術		2	講義				○		○		○	○		
		ミュージカル研究		2	講義			○		○		○		○		
		身体と表現		2	講義			○		○		○		○		
	ゼミナール	基礎演習	1		演習		○							×		
		文芸文化ゼミⅠ	1		演習			○						×		
		文芸文化ゼミⅡ	1		演習				○					×		
		文芸文化テーマ研究ゼミ	2		演習					○				×		
	卒業研究	卒業研究	4		演習							○		×		

[「卒業研究」の履修について]

註：原則として、「卒業研究」を履修するには、3年次終了時に、以下の2つの条件を満たしていること。

①2年次までの必修科目をすべて修得していること。

②修得単位数が76単位以上であること。

[コースの履修について]

註1：日本語・日本文学コースは単位数欄にある■印科目が必修科目。他に単位数欄にある□印科目より4科目8単位以上を履修すること。

註2：多文化理解・共生コースは単位数欄にある▲印科目が必修科目。他に単位数欄にある△印科目より4科目8単位以上を履修すること。

註3：芸術・文化コースは単位数欄にある●印科目が必修科目。他に単位数欄にある○印科目より4科目8単位以上を履修すること。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

文芸文化学科　カリキュラムマップ

□ → 必修科目

■ → 日本語・日本文学コース必修科目　▲ → 多文化理解・共生コース必修科目　● → 芸術・文化コース必修科目

□ → 日本語・日本文学コース選択必修科目　△ → 多文化理解・共生コース選択必修科目　○ → 芸術・文化コース選択必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語科目	・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。	日本語基礎 日本語表現Ⅰ	日本語表現Ⅱ	日本語表現Ⅲ	
ことばの科目	・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる	朗読 精読 演劇表現 読み聞かせ 文章創作 ジャーナリズムの文章 実用書道（硬筆） 実用書道（毛筆） くらしの中のことば 手話表現 表現技法 ことばあそび			
ワークショップ科目	・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる。	多文化スタディーズ	文化発信プロジェクト 着物の文化 書籍空間論 和本の文化 小説研究 エディター入門 デジタルアート入門 デザイン書道（硬筆） デザイン書道（毛筆）		
日本語・日本文学科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身に付けることができる。 （コース必修・選択科目） ・日本語・日本文学関連の基礎知識を身に付けることができる。 ・日本語・日本文学関連の専門知識を身に付けることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	日本語学入門 ■　日本文学史Ａ ■　日本文学史Ｂ ■　日本文学史Ｃ 言語学入門 日本文学の名作	日本文学概論 ■　音声表現 ■　漢詩・漢文に親しむ □　日本語学Ａ □　日本語学Ｂ □　日本語学研究Ａ □　日本語学研究Ｂ □　日本文学論Ａ □　日本文学論Ｂ □　日本文学論Ｃ □　日本文学研究Ａ □　日本文学研究Ｂ □　日本文学研究Ｃ 編集文化論 日本語音声学		
			児童文学 物語分析		
多文化理解・共生科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身に付けることができる。 （コース必修・選択科目） ・多様な文化に関する専門知識を身に付けることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を自ら収集する力を身に付けることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深める力を身に付けることができる。	多文化理解入門 多文化理解概論 ▲　日本と異文化 ▲　多文化社会とコミュニケーション △　海外文学の名作 ▲　多文化共生ワークショップ	▲　英語で学ぶ日本文化 ▲　英語で伝える日本文化 △　国際文化論 △　比較文化論 △　比較文化研究 △　世界のファンタジー △　多文化社会とユーモア △　アニメ文化論 △　ディズニー研究		
芸術・文化科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身に付けることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身に付けることができる。 （コース必修・選択科目） ・芸術・文化関連の基礎知識を身に付けることができる。 ・芸術・文化関連の専門知識を身に付けることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	芸術文化概論 ●　生涯学習概論 ●　日本美術史 ●　西洋美術史 ○　文化を考える	日本文化特講 ●　文化財研究 ●　日本の民俗文化 ○　図書の文化 ○　衣食住の文化 ○　映像文化論 ○　世界の演劇 ○　芸術と歴史 ○　テーマで触れる芸術 ○　生活とデザイン 考える日本史 神話・伝承学 芸能の世界 舞台芸術 ミュージカル研究 身体と表現		
ゼミナール 卒業研究	・人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つことができる。 ・人文科学の基本的な研究方法を身に付けることができる。 ・自らの課題を設定し探究する力を身に付けることができる。	基礎演習	文芸文化ゼミⅠ 文芸文化ゼミⅡ	文芸文化テーマ研究ゼミ	卒業研究

DP

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1．ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている
2．身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら学び、さらに調べて考察し、確かな言葉で表現し発信することができる
3．人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、多様な文化環境を有する社会のさまざまな分野に貢献できる

CP

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めると共に、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得するカリキュラムを設定している。

1年次は、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要となる基礎的な学習能力を身につける。
2年次は、思考力、分析力、語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型「文芸・文化ゼミ」を中心に、1年次で修得した知識・技能を、様々な文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、さらに発展、拡充する。
また、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで興味・関心のあり方を見定め、「専門基幹科目」の履修により3年次のコース選択に備える。
3年次は、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制のゼミにより専門分野への考究を深める。
4年次は、学びの集大成として卒業研究に取り組む。

Ⅱ-9 社会情報デザイン学部　社会情報デザイン学科（SA）

〈専門科目教育課程〉［2023年度生］

科　目　群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必 修	26単位	90単位以上
	選 択	64単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修（P.56～P.58 参照）
- 専門科目から、必修科目26単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目" !?

a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。

b. 自学科の専門選択科目64単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
　例）自学科の専門選択科目68単位取得した場合は、4 単位分が自由選択科目の単位となる。

c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

↓

a ～ c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	学部基礎科目	リベラルアーツ科目群	現代社会の基礎理解A	2		講義	○								×	
			現代社会の基礎理解B	2		講義		○							×	
			ビジネス基礎	2		講義	○								×	
			社会情報リテラシー	2		講義	○								×	
		社会学基礎	社会学基礎	2		講義	○								×	
			現代社会論	2		講義		○							×	
			社会調査法A（量的調査）		2	講義			○						×	
			社会調査法B（質的調査）		2	演習				○					×	
			社会調査実習		2	実習					○				×	
			ジェンダーと社会	2		講義	○								×	
			社会データ活用演習		2	演習	○								×	
			社会調査データ活用演習		2	演習				○					×	
	企画構想ラボ	企画構想科目	デザイン思考入門	2		講義	○								×	
			企画構想ワークショップⅠ	2		演習		○							×	
			企画構想ワークショップⅡ		2	演習			○						×	
			企画構想ワークショップⅢ		2	演習				○					×	繰り返し受講可
			現代社会プロジェクト	2		演習					○				×	
		表現基礎科目	表現基礎（デザインリテラシー）		2	演習	○		○						×	
			表現基礎（色彩）		2	演習		○		○					×	
			表現基礎（ビジュアルデザインA）		2	演習	○		○						×	
			表現基礎（ビジュアルデザインB）		2	演習			○		○				×	
			表現基礎（空間）		2	演習			○		○				×	
			表現基礎（映像）		2	演習			○	○	○	○			×	
			表現基礎（音）		2	演習			○	○	○	○			×	
		コミュニケーション科目群	異文化コミュニケーション論		2	講義			○						○	
			異文化交流		2	演習				○					×	
			プレゼンテーション		2	演習					○				×	
			日本語表現基礎		2	演習				○					×	
			英語コミュニケーションⅠ		2	演習			○	○					×	繰り返し受講可
			英語コミュニケーションⅡ		2	演習					○	○			×	繰り返し受講可
			中国コミュニケーションⅠ		2	演習			○	○					×	繰り返し受講可
			中国コミュニケーションⅡ		2	演習					○	○			×	繰り返し受講可

[社会情報デザイン学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	科目群 社会実習		現代社会実習Ⅰ（社会体験）		2	実習	○	○	○	○	○	○			×	繰り返し受講可
			現代社会実習Ⅱ（社会協働）		2	実習			○	○	○	○	○	○	×	繰り返し受講可
			インターンシップ		2	実習			○	○	○	○	○	○	×	繰り返し受講可
	領域科目群	社会領域	消費生活論		2	講義			○		○		○		○	
			住空間論		2	講義			○		○		○		○	
			市民生活論		2	講義				○		○		○	○	
			家族の社会学		2	講義			○		○		○		○	
			ライフコース論		2	講義				○		○		○	○	
			現代若者・子ども論		2	講義					○		○		○	
			コミュニティ論		2	講義	○		○		○				○	
			まちづくり論		2	講義				○		○		○	○	
			SDGs論		2	講義				○		○		○	○	
			共生社会論		2	講義					○		○		○	
			現代社会と人権		2	講義						○		○	○	
			政治と社会		2	講義						○		○	○	
			公共政策		2	講義					○		○		○	
			国際関係論		2	講義				○		○		○	○	
			エリアスタディ		2	講義			○		○		○		○	
			アイデンティティ論		2	講義					○		○		○	
			カルチュラル・スタディーズ		2	講義				○		○		○	○	
			メディアリテラシー		2	講義				○		○		○	○	
			現代アート論		2	講義			○		○		○		×	
			音楽と社会		2	講義			○		○		○		○	
			情報社会と法		2	講義	○		○		○				○	
		ビジネス領域	組織マネージメント		2	講義			○		○		○		○	
			会計学基礎		2	講義				○		○		○	○	
			企業論		2	講義				○		○		○	○	
			企業倫理とガバナンス		2	講義					○		○		○	
			ファイナンス基礎		2	講義						○		○	○	
			経営戦略論		2	講義			○		○		○		○	
			ビジネスと法		2	講義			○		○		○		○	
			ビジネスコミュニケーション		2	講義			○		○		○		○	
			グローバルビジネス		2	講義			○		○		○		○	
			生活経済		2	講義			○		○		○		×	
			サービス学基礎		2	講義				○		○		○	○	
			マーケティング基礎		2	講義		○		○		○			×	
			マーケティングと商品開発		2	講義			○		○		○		×	
			業界研究		2	演習		○		○		○			○	
			ビジネスマーケティング講座		2	講義				○		○		○	○	
			IoT・AIとビジネス		2	演習				○		○		○	×	
			ウーマン・カフェ		2	演習					○		○		×	
			ビジネスプロジェクト		2	演習						○		○	×	
			株式会社運営入門		2	演習						○		○	×	

[社会情報デザイン学科]

▶ 学年別配当欄の前・後期に ○ があるものはそれぞれの学年配当のいずれかを履修すればよい。

授業科目				単位数 必修	単位数 選択	授業形態	学年別配当 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	他学科開放	備考
専門科目	領域科目群	情報領域	プログラミング基礎		2	演習		○		○					×	
			プログラミング応用		2	演習			○		○				×	
			オブジェクト指向		2	演習				○		○			×	
			ネットショップ基礎		2	演習				○		○			×	
			ネットショップ応用		2	演習					○		○		×	
			組み込み言語基礎		2	演習				○		○			×	
			組み込み言語応用		2	演習					○		○		×	
			３Dゲーム作成入門		2	演習						○		○	×	
			Webページ作成基礎		2	演習			○		○				×	
			Webページ作成応用		2	演習				○		○			×	
			インターネット活用論		2	講義				○		○			○	
			セキュリティ概論		2	講義				○		○			×	
			情報ネットワーク基礎		2	講義					○		○		×	
			情報ネットワーク演習		2	演習					○		○		×	
			情報ネットワーク応用		2	講義						○		○	×	
			情報社会とコンピュータ		2	講義		○		○					○	
			情報科学基礎		2	講義			○		○				×	
			IoT・AIとプログラミング		2	講義				○		○			×	
			拡張・複合現実		2	講義					○		○		×	
			データサイエンス入門		2	講義					○		○		×	
			オペレーションズリサーチ		2	講義				○		○			○	
			文書作成基礎		2	演習		○		○					×	
			社会データ処理基礎		2	演習			○		○				×	
			社会データ処理応用		2	演習				○		○			×	
			社会データベース基礎		2	演習			○		○				×	
			社会データベース応用		2	演習				○		○			×	
	演習・卒業研究		演習	2		演習						○			×	
			卒業研究	4		演習								○	×	

[「卒業研究」の履修について]

註１：１．２年次終了時に次の条件①～③を満たす場合、「現代社会プロジェクト」の３年次前期からの履修を認める。

①修得単位数が62単位以上であること。

②「入門ゼミナール」、「情報処理演習Ⅰ（共通科目)」、「社会学基礎」、「デザイン思考入門」をすべて修得していること。

③学科必修科目（「現代社会の基礎理解Ａ」、「現代社会の基礎理解Ｂ」、「ビジネス基礎」、「社会情報リテラシー」、「現代社会論」、「ジェンダーと社会」、「企画構想ワークショップⅠ」）のうち６科目以上を修得していること。

註２：「卒業研究」を履修するには、原則として「現代社会プロジェクト」と「演習」を修得していること。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。
カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

社会情報デザイン学科　カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身に付けるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
学部基礎科目 リベラルアーツ科目群	・社会を広く捉える基礎として、社会科学、情報科学、人文科学の代表的な業績の知識を身に付けることができる。 ・マネジメントの基礎知識と社会情報リテラシーを身に付けることができる。 ・社会学の基礎的な概念を身に付けることができる。 ・社会学の基礎的な調査法を身に付けることができる。 ・社会に対する多面的、相対的な思考法を身に付けることができる。	現代社会の基礎理解A 現代社会の基礎理解B ビジネス基礎 社会情報リテラシー			
学部基礎科目 社会学基礎		社会学基礎 現代社会論 ジェンダーと社会 社会データ活用演習	社会調査法A（量的調査） 社会調査法B（質的調査） 社会調査データ活用演習	社会調査実習	
企画構想ラボ 企画構想科目	・デザイン思考をはじめとする発想法を身に付けることができる。 ・課題の発見・定義・提案に至る流れを理解し、実践的なプロジェクトの遂行能力を身に付けることができる。 ・コミュニケーションと協働の力を身に付けることができる。 ・視聴覚表現の基礎技術を身に付けることができる。 ・視聴覚表現を用いたコミュニケーション力を身に付けることができる。 ・視聴覚表現を用いた発想の展開方法を身に付けることができる。 ・コミュニケーションの基礎としての言語表現の力を身に付けることができる。 ・多様な背景の人々とのコミュニケーションに必要な異文化理解の力を身に付けることができる。 ・総合的なプレゼンテーションの能力を身に付けることができる。	デザイン思考入門 企画構想ワークショップⅠ	企画構想ワークショップⅡ 企画構想ワークショップⅢ	現代社会プロジェクト	
企画構想ラボ 表現基礎科目		表現基礎（デザインリテラシー） 表現基礎（色彩） 表現基礎（ビジュアルデザインA）	表現基礎（ビジュアルデザインB） 表現基礎（空間） 表現基礎（映像） 表現基礎（音）		
企画構想ラボ コミュニケーション科目群			異文化コミュニケーション論 異文化交流 日本語表現基礎 英語コミュニケーションⅠ 中国コミュニケーションⅠ	プレゼンテーション 英語コミュニケーションⅡ 中国コミュニケーションⅡ	
社会実習科目群	・実社会の体験を通して現代社会を理解する力を身に付けることができる。 ・実社会におけるコミュニケーションと協働の力を身に付けることができる。	現代社会実習Ⅰ（社会体験）	現代社会実習Ⅱ（社会協働） インターンシップ		
領域科目群・社会領域	・現代社会を対象化・相対化して理解・解明する力を身に付けることができる。 ・現代社会を解明するための調査力を身に付けることができる。 ・マネジメントの基礎を理解することができる。 ・社会の課題をマネジメントする力を身に付けることができる。 ・現代社会を理解するために情報を活用する力を身に付けることができる。 ・社会の課題解決に必要な情報技術を身に付けることができる。	コミュニティ論 情報社会と法	消費生活論 住空間論 市民生活論 家族の社会学 ライフコース論 まちづくり論 SDGs論 国際関係論 エリアスタディ カルチュラル・スタディーズ メディアリテラシー 現代アート論 音楽と社会	現代若者・子ども論 共生社会論 現代社会と人権 政治と社会 公共政策 アイデンティティ論	
領域科目群・ビジネス領域		マーケティング基礎 業界研究	組織マネージメント 会計学基礎 企業論 経営戦略論 ビジネスと法 ビジネスコミュニケーション グローバルビジネス 生活経済 サービス学基礎 マーケティングと商品開発 ビジネスマーケティング講座 IoT・AIとビジネス	企業倫理とガバナンス ファイナンス基礎 ウーマン・カフェ ビジネスプロジェクト 株式会社運営入門	
領域科目群・情報領域	・現代社会を対象化・相対化して理解・解明する力を身に付けることができる。 ・現代社会を解明するための調査力を身に付けることができる。 ・マネジメントの基礎を理解することができる。 ・社会の課題をマネジメントする力を身に付けることができる。 ・現代社会を理解するために情報を活用する力を身に付けることができる。 ・社会の課題解決に必要な情報技術を身に付けることができる。	プログラミング基礎 情報社会とコンピュータ 文書作成基礎	プログラミング応用 オブジェクト指向 組み込み言語基礎 Webページ作成基礎 Webページ作成応用 インターネット活用論 セキュリティ概論 情報科学基礎 IoT・AIとプログラミング オペレーションズリサーチ 社会データ処理基礎 社会データ処理応用 社会データベース基礎 社会データベース応用	ネットショップ基礎 ネットショップ応用 組み込み言語応用 ３Dゲーム作成入門 情報ネットワーク基礎 情報ネットワーク演習 情報ネットワーク応用 拡張・複合現実 データサイエンス入門	
演習・卒業研究	・専門のテーマに基づき課題を発見、定義、解決する力、創造的に提案する力を身に付けることができる。 ・他者との協働作業において適切な役割を見いだし、実行する力を身に付けることができる。			現代社会プロジェクト 演習	卒業研究

DP	社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1．Society5.0で示される新たな人・モノ・カネ・サービス・情報の流れに対応できる 2．社会的事象の調査分析能力、情報リテラシー、マネジメント力を備える 3．実践的な活動を通して社会に積極的に参画し、課題の解決とともに新たな社会のデザインに参画できる
CP	社会情報デザイン学科では、社会学を中核に社会科学と情報技術を含めた学際的アプローチを教育研究の基盤とし、さらにSociety5.0で示された新たな社会のあり方に対応し、社会に積極的に参画して課題の解決とともに新たな社会のデザインに参画する能力を備えた人材の育成を目指す。